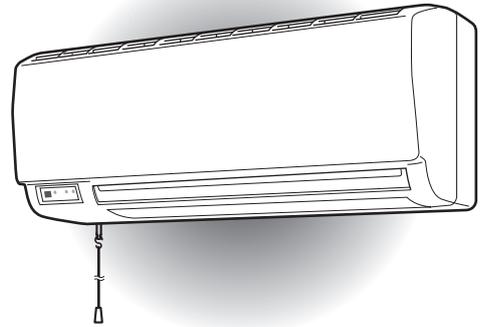


# 設置工事説明書

品名・型式名

RBH-W414K  
HBD-4114AUSK  
RBH-W414KP  
HBD-4114AUSK-P

この機器の設置には  
資格が必要です



図はRBH-W414KP、HBD-4114AUSK-P型です。



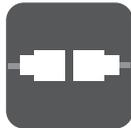
## 良くある施工ミス

以下のような施工ミスが発生しています。  
本書をよくお読みになって、試運転を必ず  
行ってください。



暖房配管の  
逆接続

P.14



換気用コネクタの  
接続忘れ

P.20



通信線の  
かしめ不良

P.21

## 工事される方へのお願い

- この設置工事説明書に従って正しく施工してください。
- 電気工事は、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。
- 電気設備に関する技術基準、建築基準法、各都市の条例、消防法に従って設置工事を行ってください。
- 循環水は水道水（上水）をご使用ください。凍結の恐れのある地域に設置する場合は、不凍液をご使用ください。  
（温泉水でのご使用はしないでください。配管の腐食による水漏れなどの原因になります。）
- この設置工事説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は商品の保証をしかねますのでご注意ください。
- 工事終了後にお客さまに使用方法・保証の内容をよく説明の上、この設置工事説明書と取扱説明書（保証書付）をお渡しください。

## もくじ

安全上のご注意	1
機器の設置工事手順	3
開梱・工事前に準備するもの	4
寸法図	6
1. 取付位置の確認	7
1-1. 設置位置を決める上での注意	7
1-2. ランドリーパイプ（別売品）を設置する上での注意	8
2. 機器の取り付け前の準備	9
2-1. 穴あけ位置のしるしづけ	9
2-2. 壁への穴あけ	10
2-3. 機器取付板の取り付け	11
2-4. 壁スリーブの取り付け	13
3. 機器の取り付け・固定	14
4. 換気ボックスの取り付け	16
4-1. 壁面取付板の取り付け	16
4-2. 延長ホース、電源線、換気ファン電源線、信号線の固定	17
4-3. 換気ファンの取り付け	18
5. 温水配管の接続	19
6. 電源の接続	20
7. 信号線の接続	21
8. 排気フードキャップの取り付け	22
9. 熱源機側の温水配管、信号線、電源の接続	24
9-1. 温水配管、信号線の接続	24
9-2. 電源の接続	24
9-3. アース工事	25
10. 本体暖房運転 SW 用操作ひもの取り付け	25
11. リモコンの取り付け	26
12. ランドリーパイプ（別売品）の取り付け	27
13. 試運転	28
13-1. 自動試運転 （自動試運転機能付き熱源機を使用される場合）	28
13-2. 試運転	28
14. 設置工事後の点検確認	32
15. 異常時の処置、お客さまへの説明	33
15-1. 異常時の処置	33
15-2. お客さまへの説明	34



# 安全上のご注意

この機器を安全に設置・使用していただくために、下記のことは必ずお守りください。  
これらの注意事項は安全に関する重要な内容です。  
表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
 <b>警告</b>	この表示を無視して誤った作業をすると、設置工事業者およびお客さまが死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。
 <b>注意</b>	この表示を無視して誤った作業をすると、設置工事業者およびお客さまが傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性が想定される内容を表しています。

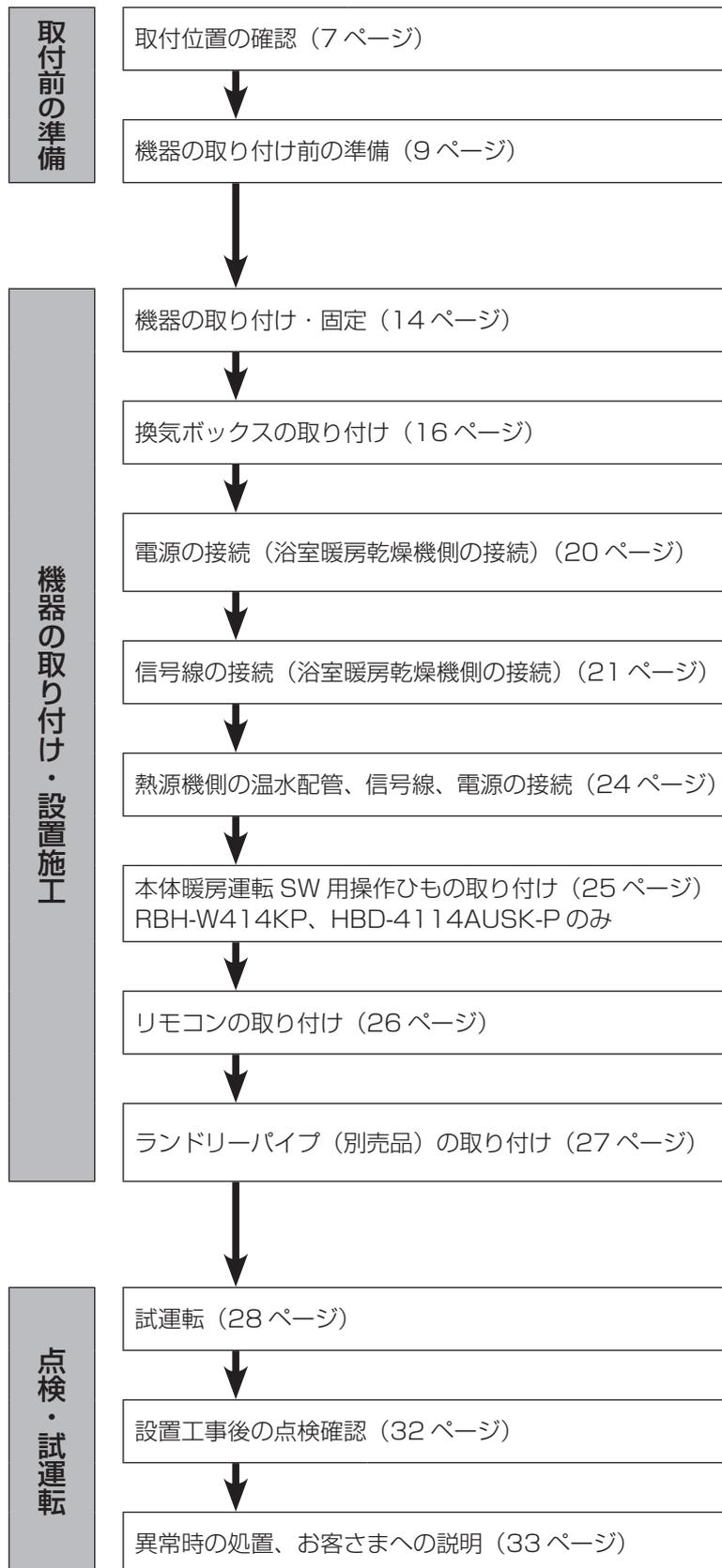
			
一般的な禁止	一般的な注意（警告含む）	アースの接続	必ず行う

・設置工事完了後試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客さまに使用方法・お手入れの仕方を説明してください。

 <b>警告</b>	 内釜式風呂を設置した浴室には使用できません。 排気ガスが浴室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすことがあります。
	 機器本体取り付け時、機器の改造は絶対に行わないでください。
	 アース工事を行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線には接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。
	 機器の設置・移動および付帯工事には専門の技術が必要です。工事は必ずお買い上げの販売店または専門業者に依頼してください。
	 設置工事はこの設置工事説明書に従って確実に行ってください。 据え付けに不備があると、感電、火災、水漏れの原因になります。
	 設置は機器本体の質量に十分耐えられる所に確実に行ってください。 強度不足や取り付けが不完全な場合は、機器の落下によりケガの原因になります。
	 凍結予防のため冬期は専用ブレーカーを「入」にしておいてください。凍結予防運転を行います。機器に電源が入っていない状態で冬期に外気温が0℃以下になると、温水回路の水が凍結し、温水回路の破損につながります。破損しますと、多大な被害を起こすことがありますので、寒冷地など、凍結の恐れのある地域に設置する場合は、不凍液を使用してください。
	 電気工事は「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および工事説明書に従って施工し、できるだけ本機器専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
	 メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製のダクトや配管などが貫通する場合、金属製のダクトや配管などとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けてください。漏電した場合、火災の原因になります。

<b>警告</b>		<p> 漏電ブレーカーの取り付けが必要です。 漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。</p>
		<p>作業時は必ず手袋等の保護具を着用してください。 高さが2m以上の高所での作業時は、安全確保のための装備(保護帽、安全带、安全作業靴、脚立、2連伸縮はしごなど)を必ず使用してください。落下事故の原因になります。</p>
<b>注意</b>		<p>可燃性ガスが漏れる恐れのある場所には設置しないでください。 万一ガスが漏れて機器の周囲にたまると、火災の原因になることがあります。</p>
		<p>表示してある電源 (AC100V) 以外では使用しないでください。 火災の原因になります。</p>
		<p>ポリエチレン管 (ペアチューブ) 取り扱い時にカッターナイフは使用しないでください。 ナイフの刃でポリエチレン管 (ペアチューブ) を傷つける恐れがあるため、ポリエチレン管 (ペアチューブ) のアルミ蒸着フィルムをはがす際には、たてさき刃を使用し、カッターナイフは使用しないでください。</p>
		<p>ポリエチレン管 (ペアチューブ) に直接マジックインキでマーキングなどの書き込みをしないでください。 ポリエチレン管 (ペアチューブ) はトルエン系の溶剤に弱いため、マジックインキ (トルエン系のインク) で直接パイプ表面にマーキングや文字を書いたりしないでください。</p>
		<p>ポリエチレン管 (ペアチューブ) で配管する場合は、次のことに注意してください。 ・ 太陽光のもとに長時間さらさないでください。 ポリエチレン管 (ペアチューブ) は、紫外線により劣化するため、太陽光に長時間さらさないでください。特にアルミ蒸着フィルムを巻いていないで太陽光にさらされた部分は、使用しないでください。 ・ ポリエチレン管 (ペアチューブ) は、屋内の太陽光の当たらない場所に保管してください。</p>
		<p>・ ポリエチレン管 (ペアチューブ) は丁寧に取扱ってください。 ポリエチレン管 (ペアチューブ) に巻いてあるアルミ蒸着フィルムは、かたい物に当たるとはがれる場合があります。丁寧に扱ってください。 ・ コンクリートの床に置く場合は、ダンボールなどを敷いて保護してください。</p>
		<p>ポリエチレン管 (ペアチューブ) を切断するときは、必ず管端カッター (AZ-1200) を使用してください。 塩ビカッターなどで切断すると切り口が変形し、差し込めなくなります。</p>
		<p>部品の取り付けは確実に行ってください。 落下により、ケガをする恐れがあります。</p>
		<p>循環水は水道水 (上水) をご使用ください。温泉水を使用されると、配管の腐食による水漏れなどの原因になります。</p>
		<p>機器・ネジカバーは確実に固定してください。 確実に固定されていないと落下してケガをする原因となります。</p>
		<p>温泉水を引き込んだ浴室には設置しないでください。 温泉水や温泉成分を含んだ入浴剤を使用した湯水が本体に付着すると、変色、腐食などが発生しやすくなり、性能の劣化ばかりか耐久性が著しく損なわれる原因になります。</p>
	<p>電源コードは確実に接続・固定してください。不確実な接続および揺れによる摩擦、被覆の損傷により、火災のおそれがあります。</p>	

# 機器の設置工事手順



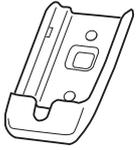
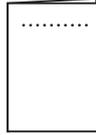
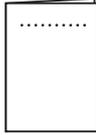
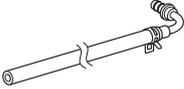
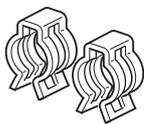
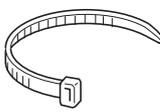
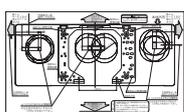
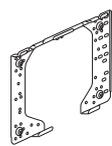
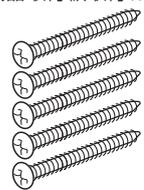
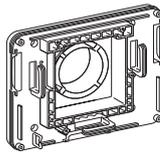
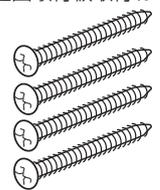
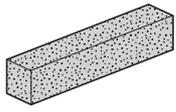
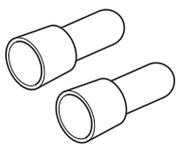
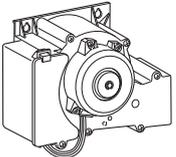
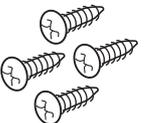
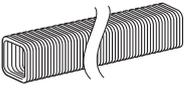
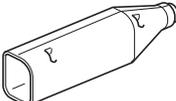
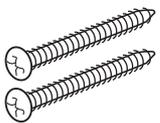
# 開梱・工事前に準備するもの

## 1. 開梱の際の注意事項

- ・ 機器が使用目的・用途に適合しているか確認する。
- ・ 梱包材から機器をていねいに取り出す。

## 2. 機器に同梱されている付属品

次の部品が付属されています。開梱後ただちに不足がないことを確認する。

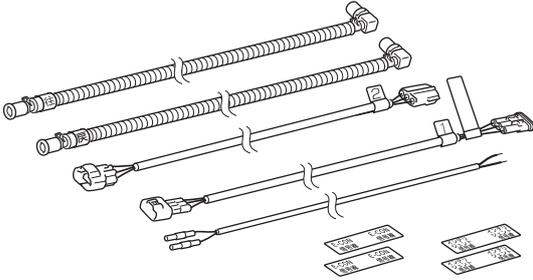
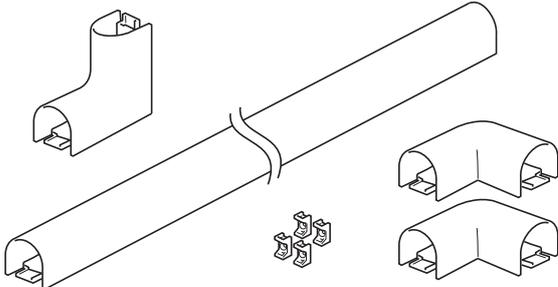
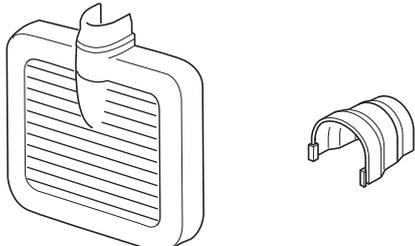
リモコン本体・ホルダー図は、RBH-W414K 型で示す						
部品名 形状	リモコン本体  1 個	リモコンホルダー  1 個	リモコンホルダー取付ねじ  φ4×16mm 2本	単4形乾電池  2本	取扱説明書  1冊	設置工事説明書  1冊
部品名 形状	延長ホース (往)  L=1m 1組	延長ホース (戻)  L=1m 1組	CHM ジョイント  2 個	CH クリップ  4 個	ホースバンド  2 個	本体暖房運転スイッチ 操作ひも   ※ RBH-W414KP HBD-4114AUSK-P にのみ付属
部品名 形状	配管押え  2 個	配管押え取付ねじ  φ4×14mm 2本	結束バンド  2本	ゴムブッシング  1 個	壁スリーブ  250mm 1 個	アルミテープ  1 枚
部品名 形状	型紙  1 枚	機器取付板  1 個	機器取付板取付ねじ  φ4×60mm 5本	機器固定ねじ  φ4×10mm 2本 (タッピンネジ)	電源コード  5 m	φ4丸端子  3 個
部品名 形状	排気フードキャップ  1 個	排気フードキャップ取付ねじ  φ4×12mm 4本	壁面取付板  1 個	壁面取付板取付ねじ  φ4×40mm 4本	パッキン  2 個	閉塞端子  4 個
部品名 形状	換気ファン  1 個	換気ファン取付ねじ  φ4×14mm 4本	フリーコーナー  L=0.5m 1 個	接続口ダクト  1 個	接続口ダクト取付ねじ  φ4×14mm 4本	接続口ダクト固定ねじ  φ4×40mm 2本

### 3. 必要な工具、現地手配部材

- ・電気ドリル（チャック径φ 13mm 以上）
- ・ホールコアドリル φ 100mm（ダイヤモンドコア、木工用、板金用）
- ・芯出しロングドリル
- ・下穴用コンクリートドリル
- ・引き回しのこ
- ・パイプカッター
- ・六角スパナ（30）
- ・防塵メガネ
- ・壁裏センサー
- ・養生材
- ・脚立（脚部を養生したもの）
- ・掃除機
- ・水準器（長さ 400mm 程度）
- ・カシメ工具
- ・塩ビパイプ切断用のこ
- ・シリコン、シリコンガン
- ・木工ボンド
- ・アース棒、中空用アンカー、オールプラグ、補強合板
- ・カッター

### 4. その他必要な別売部品

● 次の別売部品を使用することにより外壁面以外の壁面にも設置が可能になります。

<p>浴室用配管施工セット BHOT-W009</p> <p>室内を配管引回しする時に使用します。</p> 	<p>室内用配管カバーセット BHOT-W010</p> <p>室内を配管引回しする時の化粧カバーとして使用します。</p> 
<p>浴室換気グリルセット BHOT-W012</p> <p>室内の換気口の化粧カバーとして使用します。</p> 	

#### ● その他

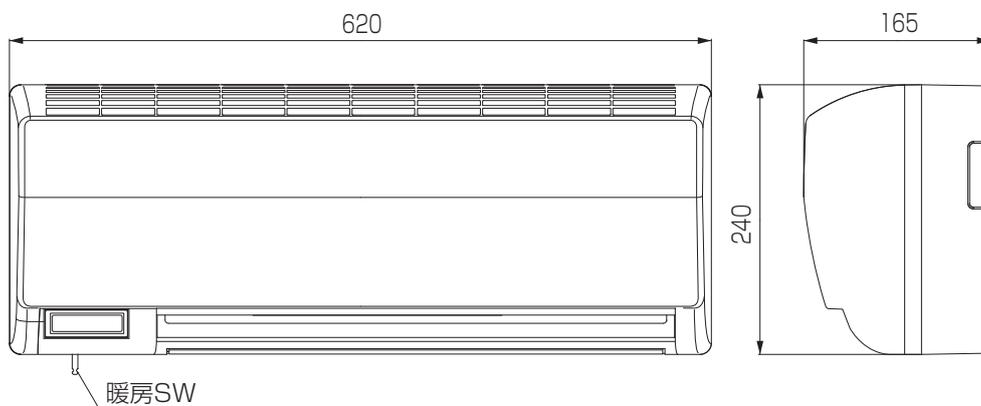
- ・配管セットA（型式：BHOT-W002（A））：熱源機側がネジ接続の場合
- ・配管セットB（型式：BHOT-W002（B））：熱源機側がCHジョイント接続の場合  
熱源機までの配管部材です。
- ・ランドリーパイプセット（型式：RBK-W054）…ランドリーパイプ2本セット
- ・ランドリーパイプセット（型式：BHOT-W015）…ランドリーパイプ1本セット

# 寸法図

## 本体

下図は、RBH-W414KP、HBD-4114AUSK-P型で示す。  
RBH-W414K、HBD-4114AUSKには、暖房SWがありません。

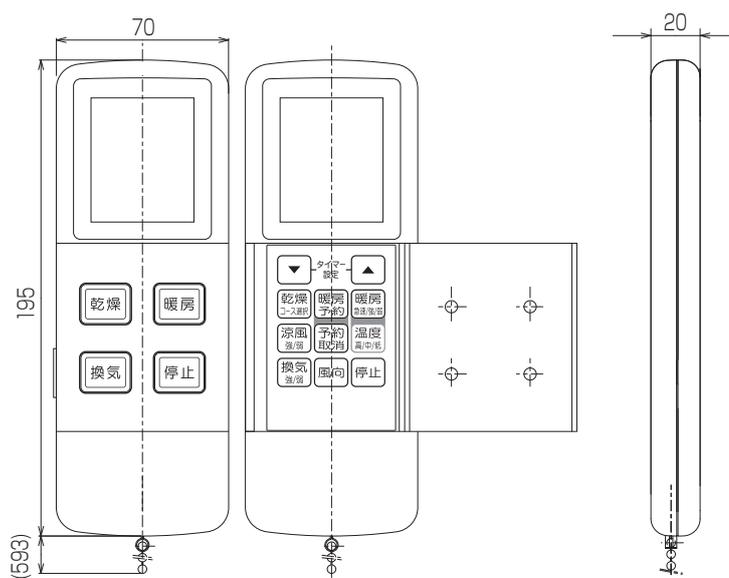
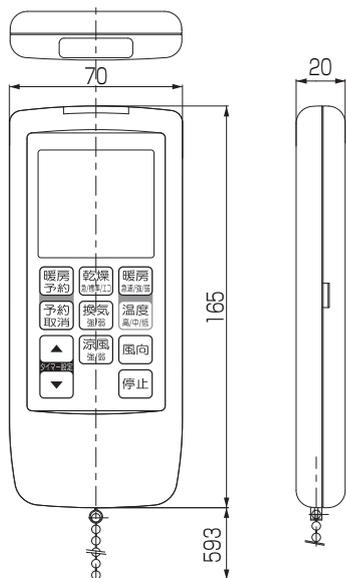
(単位：mm)



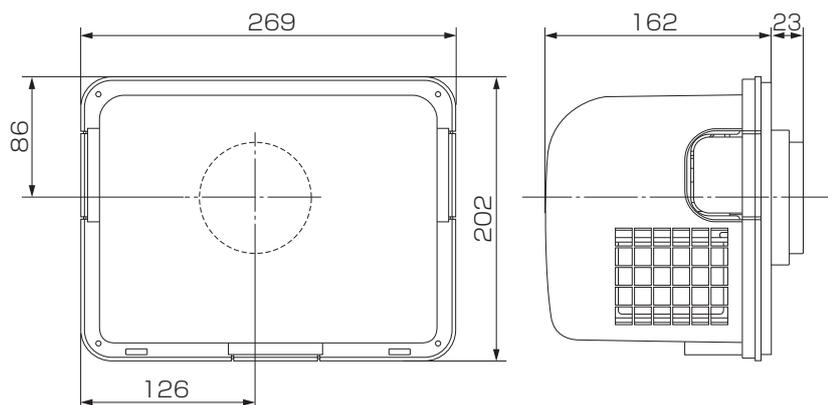
## リモコン

RBH-W414K  
HBD-4114AUSK

RBH-W414KP  
HBD-4114AUSK-P



## 換気ボックス



# 1. 取付位置の確認

## 1-1 設置位置を決める上での注意

### 1. 機器は 2.0 坪までの広さの浴室に設置すること。

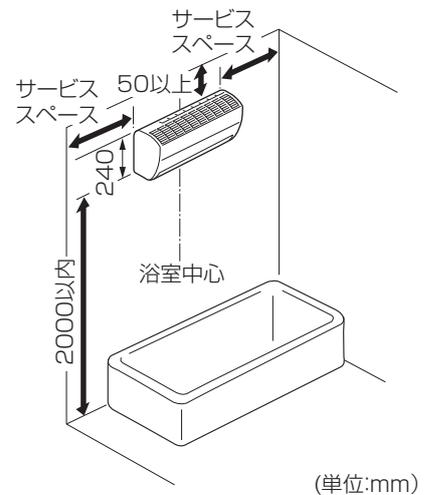
天井高さ 2200mm 以上、窓の大きさが  $1\text{m}^2$  を超える窓がある場合は、性能が発揮できませんのでご注意ください。入浴前の予備暖房や床近辺の暖まりに時間がかかります。事前にお客さまへの十分な説明が必要です。

### 2. 外壁面側に設置すること。(本品は外壁側に換気部を据え付けて直接排気するタイプの製品です。)

別売の浴室用配管施工セット (BHOT-W009) を使用することにより、内壁面にも取り付け可能です。詳細は浴室用配管施工セットの工事説明書を参照してください。

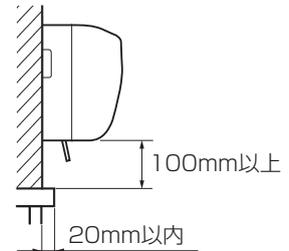
### 3. 設置時に本体が窓や浴室の扉にかからないこと。

- 天井から窓の上端までの寸法は 390mm 以上 (機器高さ + 天井から 50mm + 窓の上端から 100mm) のスペースが必要です。
- 取り付け壁面は、横幅は 680mm 以上 (機器幅 + 左右各 30mm) のスペースが必要です。



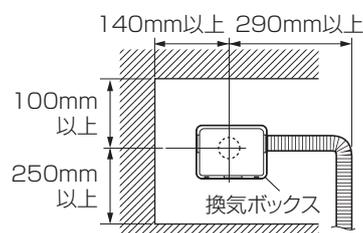
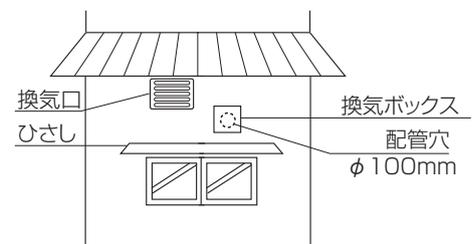
## ⚠ 注意

機器の底面には温風吹出し口があります。ルーバーがスイングするときにルーバーが機器本体より出ます。設置したときにルーバーがスイングして接触したり、当たったりする物がないか確認してください。



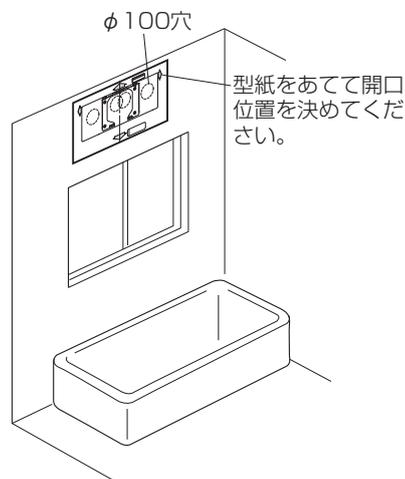
### 4. 配管穴に換気ボックスの部材を取り付けたときに換気ボックスがひさし、換気口 (換気扇開口部) などにかからないこと。

配管穴の中心位置から上側に 100mm 以上、ダクト取り出し側に 290mm 以上、ダクト取り出しと反対側に 140mm 以上、下側に 250mm 以上のスペースが必要です。



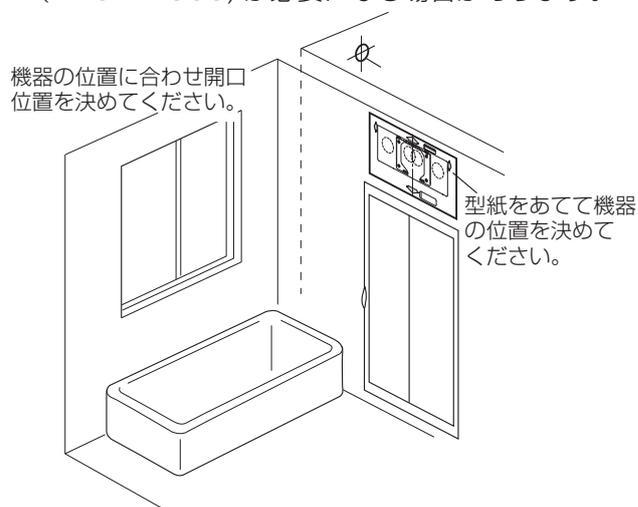
## 5. 温水配管、電気配線などをどの位置から配管、配線し、浴室のどの壁面に設置するかを決めること。

・外壁に面した壁面に設置



・外壁に面してない壁面に設置

この設置の場合は、別売の浴室用配管施工セット (BHOT-W009) が必要になる場合があります。



## 6. 配管用の開口位置は、壁内の間柱、筋かい、補強桱を回避すること。

建築構造や間柱のピッチなどを参考に壁裏センサを使ったり、壁をたたいたりして、間柱、筋かい、補強桱がないことを確認してください。間柱、筋かい、補強桱が配管穴にかかる場合は開口位置をずらしてください。

## 7. 浴室の内・外壁が損傷していないこと。

タイル・壁などが損傷している場合はお客さまに相談し、了解を得ておくか、事前に補修を行っておくことが必要です。

## 8. 設置面の壁は湾曲のない平らな壁であること。

設置面が湾曲していると、機器運転時の振動や異常音の原因になります。

## 9. 既存の換気口を塞ぐ。

既存の換気口がある場合は、暖房能力が低下する場合があります。

## 10. 漏電ブレーカーの確認。

熱源機から電源をとらない場合は、機器の電源回路に専用の漏電ブレーカー（現地手配：24 ページ参照）を設置する。

## 11. 屋外での作業スペースを確保すること。

脚立などでの作業スペースとして外壁から 600mm 以上必要です。

## 12. できるだけ照明から離して設置すること。

照明の明るさにより、リモコン信号を受け付けないことがあります。

## 1-2 ランドリーパイプ（別売品）を設置する上での注意

- ランドリーパイプの取り付け位置はお客さまと話し合って決めてください。
- ランドリーパイプは、本機器の付属部品ではありません。別売品で設定してあるものを使用してください。
- 浴室の天井高さが床面より 2200mm 以上ある場合は、27 ページを参考にあらかじめランドリーパイプの高さ位置確認を行ってから、本体施工にかかってください。
- ランドリーパイプの取り付け（別売品）（27 ページ）を参照し取付位置を選んでください。

### ⚠ 注意

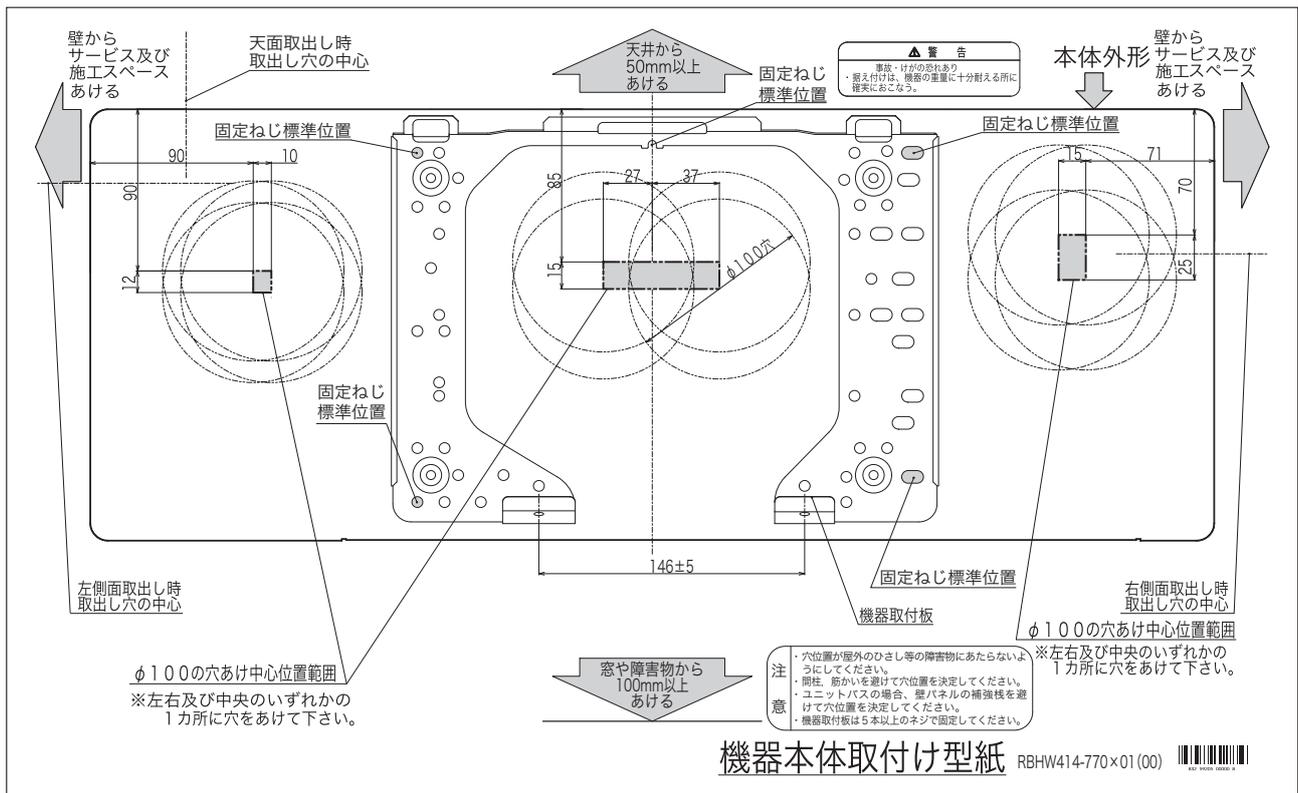
正規の位置より大きくずらさないでください。指定の位置から大きくずれる場合、温風があたりにくくなり、乾燥時間が長くなる場合があります。照明などで正規の位置に取り付けられない場合は、温風が充分あたる位置に取り付けてください。

# 2. 機器の取り付け前の準備

## 2-1. 穴あけ位置のしるしづけ

付属の型紙で穴あけ位置のしるしづけを行います。

1. 機器を設置する壁面に型紙を貼り付け、水準器で水平を確認してください。特に傾斜天井の場合は注意してください。
2. 型紙の上から壁面に配管穴（ $\phi$  100mm）の中心位置のしるしをつけてください。配管穴は、型紙に示されている範囲内の任意の位置に開けることができます。（右、中央、左のいずれかを選択してください。）
3. 同様に機器取付板の取付ねじ（5カ所）の下穴位置のしるしをつけてください。下図の「固定ねじ位置」にしるしをつけてください。（取付板四隅と中央上部）
4. しるしをつけ終わったら、型紙を壁面からはがしてください。（型紙を破らないように注意してください。）

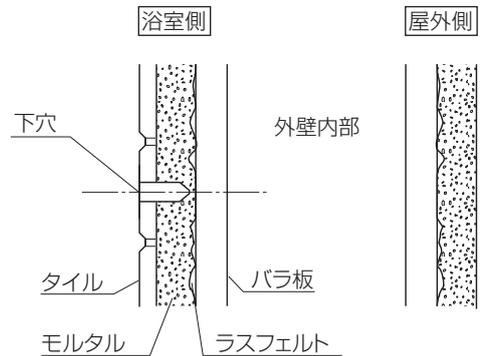


## 2-2. 壁への穴あけ

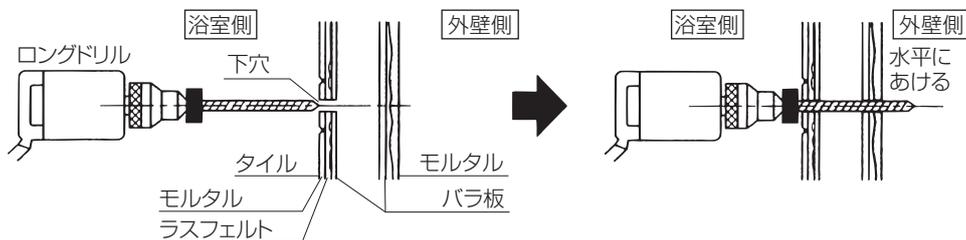
(この項は、在来浴室の例で説明します。)

1. 壁面にしるしをつけた配管穴中心位置および機器取付板の取付ねじ下穴位置（5カ所）に、ポンチでドリル中心位置を決める。タイルなどを割らないように注意する。

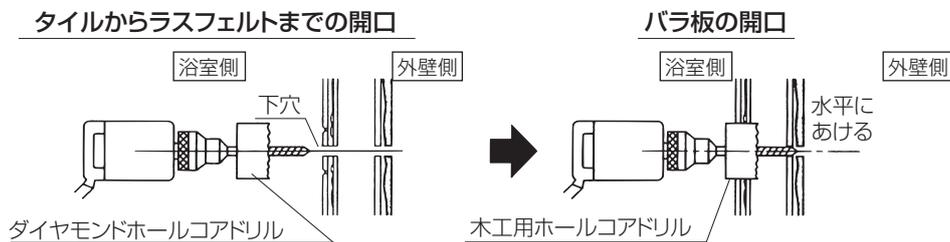
2.  $\phi 4$  ねじの下穴（ $\phi 3.4\text{mm}$  穴）を開ける。（配管穴中心位置 1カ所、取付ねじ下穴 5カ所。）取付ねじ下穴 5カ所はタイルとモルタル部にだけ開ける。タイル目地への下穴開けにあたって、タイルを破損しないように十分注意する。



3. 配管穴の外壁への下穴を、浴室側からロングドリルで開ける。



4. 浴室側壁面のタイルからラスフェルトまでを、下穴に沿って $\phi 100\text{mm}$ のダイヤモンドホールコアドリルで開口し、バラ板を $\phi 100\text{mm}$ の木工用ホールコアドリルで開口する。

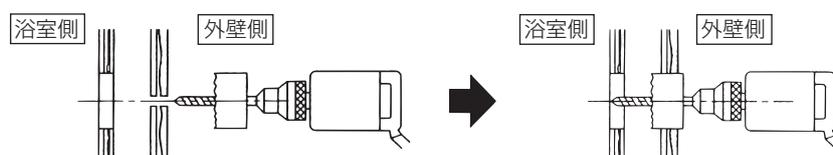


### ⚠ 注意

- ・タイルの穴加工時に、タイルを破損しないよう十分注意してください。
- ・ホールコアドリルは、壁の材質によって選んでください。  
この説明書の内容は工事の一例です。

タイル, ALC …ダイヤモンド  
バラ板, モルタル…木工用  
塩ビ鋼板 …板金用

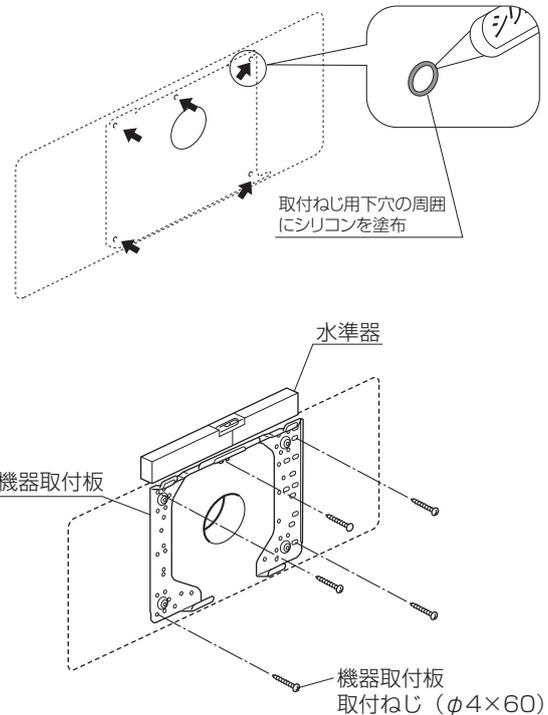
5. 壁を外側から下穴に沿って $\phi 100\text{mm}$ ホールコアドリルで開口する。



## 2-3. 機器取付板の取り付け

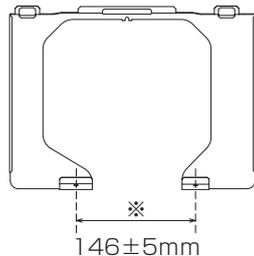
### 在来工法浴室への取り付け

1. 機器取付板取付ねじ用の下穴の周囲（5カ所）に、シリコンを塗布する。
2. 機器取付板を機器取付板取付ねじ（ $\phi 4 \times 60:5$ 本）（付属品）で壁面に仮固定する。下穴位置と取付板のねじ固定位置を間違えないようにする。
3. 機器取付板の水平を確認し、壁内の構造体（バラ板など）に機器取付板取付ねじ（ $\phi 4 \times 60:5$ 本）（付属品）で強固に固定する。（中央1カ所を固定し、水準器で水平を確認しながら他のねじを締める。）必要に応じてねじの数を増やす。



### 注意

機器取付板を機器取付板取付ねじで固定する際、左右方向へ変形しないように注意してください。

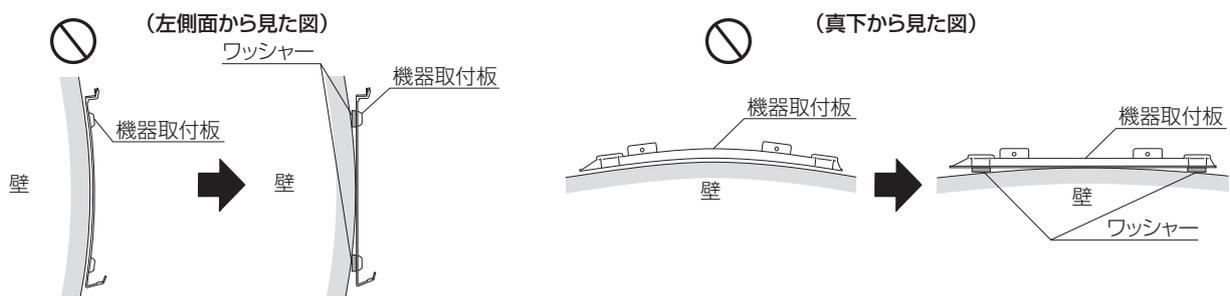


※設置後、寸法を確認してください。

### 注意

機器取付板を湾曲した設置面に取り付けると、機器本体を取り付けた際に無理な力がかかり、変形や異常音の原因になります。

その場合、機器取付板と設置面の間にステンレス製のワッシャー等を挟んで機器取付板を水平にしてください。



## ユニットバスへの取り付け

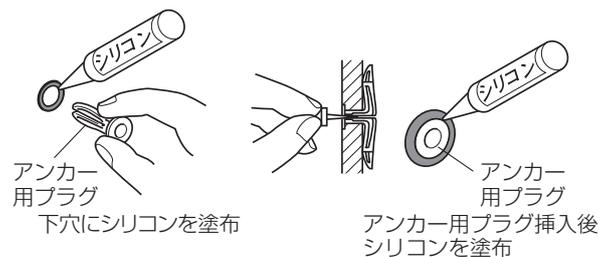
### ⚠注意

- ・壁、壁パネルの材質によっては、機器取付板を固定するときにアンカー用プラグ（現地手配）を使用する必要があります。壁、壁パネルの材質、構造を事前に確認してください。
- ・アンカー用プラグは、機器の質量に十分耐えるもの（10kg以上）を使用してください。アンカー用の穴の端面や、アンカー取り付け後のアンカー部分には、錆の発生を防ぐためにも十分なシールを施してください。

※ユニットバスに取り付けるときは、必ず1カ所は補強用合板（80mm×200mm×12mm（現地手配））を使用し補強する。

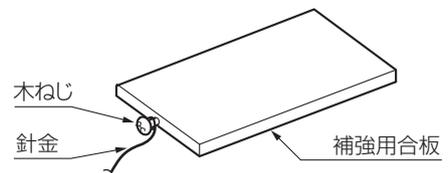
1. しるしをつけた下穴位置5カ所の内、4カ所（補強用合板が入らないところ）に、使用するアンカーに合ったサイズの下穴をあける。  
※アンカー推奨品 ・サンコーテクノ トメラー TM  
・因幡電工 トリカ T-6  
・右図のアンカーは一例です。  
・アンカーは現地手配

2. 下穴の周囲にシール剤を塗布しアンカー用プラグを挿入、固定する。アンカーの周囲にシリコンを塗布し錆が発生しないようにシールをする。



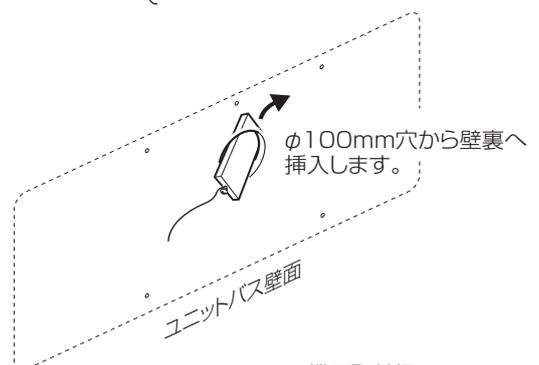
3. しるしをつけた下穴位置の残り1カ所にφ4ねじの下穴（φ3.4mm穴）を開ける。

4. 補強用合板（現地手配）に木ねじを取り付け、針金を巻きつける。強く引っ張っても抜けないように巻きつける。

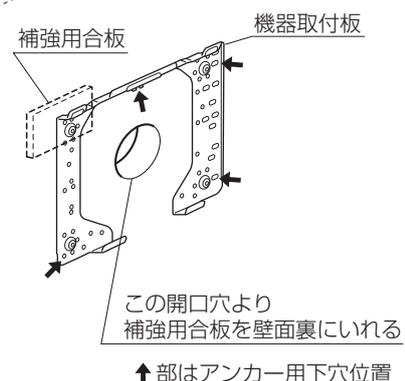


5. 補強用合板（現地手配）に接着剤を塗布し、配管の通し用壁穴（φ100mm）から壁面裏に挿入する。（針金をしっかり持ち、補強用合板を壁内に落とさないように注意する。）

注）補強用合板位置は、機器取付板の取り付けねじ穴位置に必ず合わせる。補強用合板は、壁面裏に約50mmのスペースがあれば入れられますが、入らない場合は、補強用合板を少しカットする。

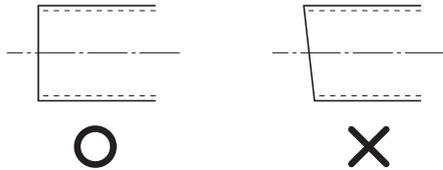


6. 機器取付板を取付ねじで壁面に仮固定した後、機器取付板の水平を確認し、機器取付板取付ねじ（φ4×60:5本）（付属品）5本で強固に固定する。必要に応じてねじの本数を増やす。

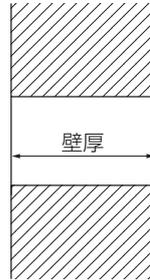


## 2-4. 壁スリーブの取り付け

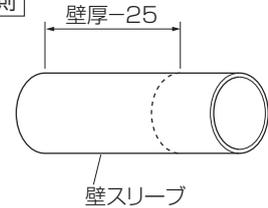
- 壁スリーブを**壁厚-25mm**の長さに切る。  
スリーブの切断面が斜めにならないように注意する。  
※オプションの換気口用蓋セット (BHOT-W019) を使用の場合は、壁スリーブを壁厚-18mmの長さに切る。



浴室側



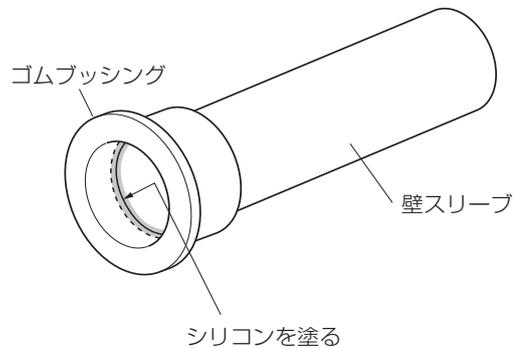
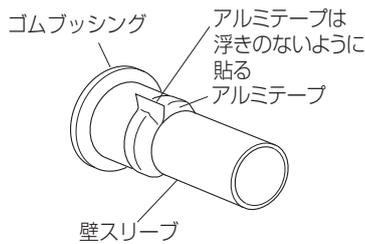
外壁側



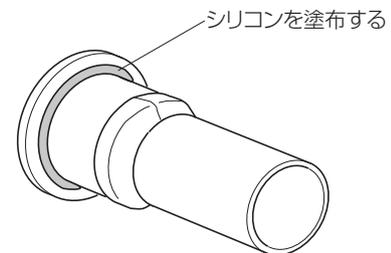
(単位:mm)

※壁スリーブの長さが足りない場合は現地手配する。

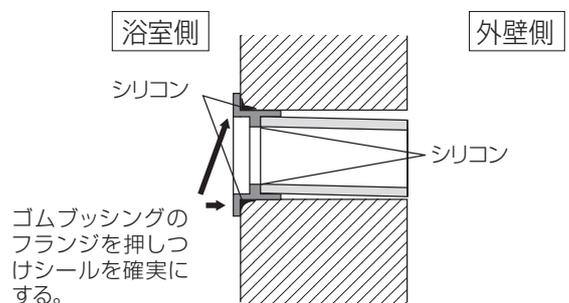
- 壁スリーブとゴムブッシングは、アルミテープ (付属品) を貼って固定する。  
ゴムブッシングの内側の壁スリーブとの接続部にシリコンを塗りシールをする。



- ゴムブッシングのフランジ裏側全周にシリコンを塗布する。



- 壁スリーブを浴室側から配管穴に挿入する。挿入後、ゴムブッシングのフランジ面を壁に押しつけて壁とゴムブッシングとを密着し、シールをする。



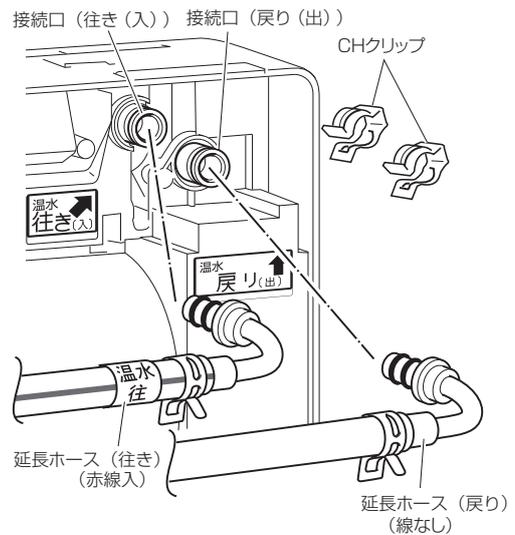
# 3. 機器の取り付け・固定

※機器外観面にキズや汚れがつかないように注意して作業してください。

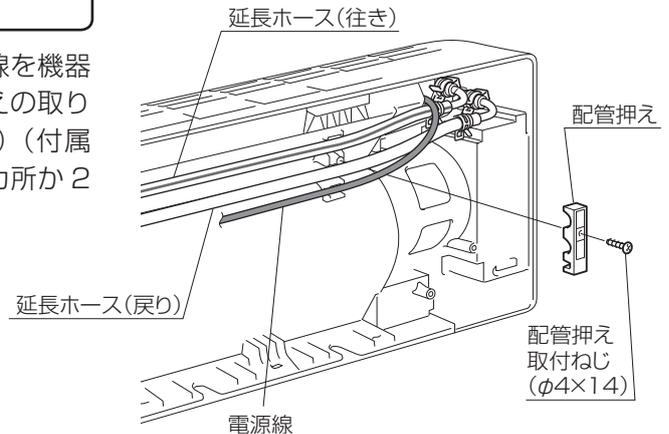
1. 機器背面の循環温水接続口に延長ホースを挿入し、CHクリップ（付属品）で固定する。

## ⚠ 注意

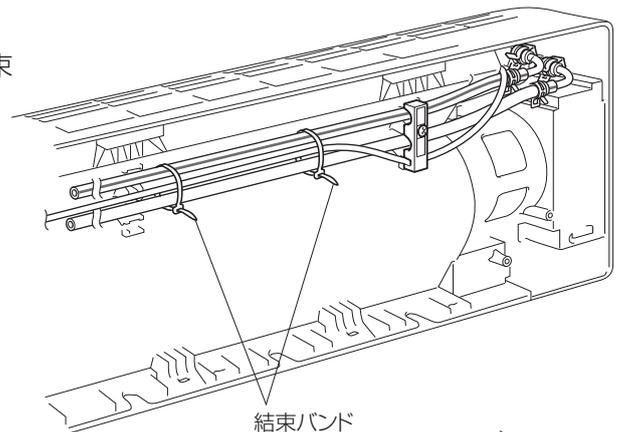
- ・循環温水には「往」「戻」があります。機器の接続口の「往」表示と延長ホースの（往）用（赤線入）、「戻」表示と延長ホースの（戻）用（無印）を各々合わせて接続してください。
- ・延長ホースには、Oリングが組み付けてあります。機器への挿入時にキズをつけないように注意してください。（Oリングには、輸送時のキズを防止するためのキャップがついています。キャップをはずしてから接続してください。）



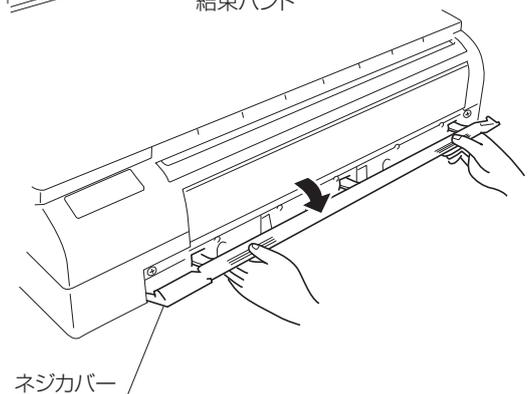
2. 延長ホース、電源線、換気ファン電源線、信号線を機器背面に配管押え（付属品）で固定する。配管押えの取り付けは、配管押え取付ねじ（φ4×14：1本）（付属品）で行う。ホースの引き回し位置によって1カ所か2カ所選択し固定してください。



3. 電源線、換気ファン電源線、信号線を延長ホースに結束バンド（付属品）で固定する。



4. 機器本体のネジカバーをはずす。  
**ネジカバーのはずし方**  
ネジカバーの両側の「はずす」の個所を手前に引くようにしてはずしてください。



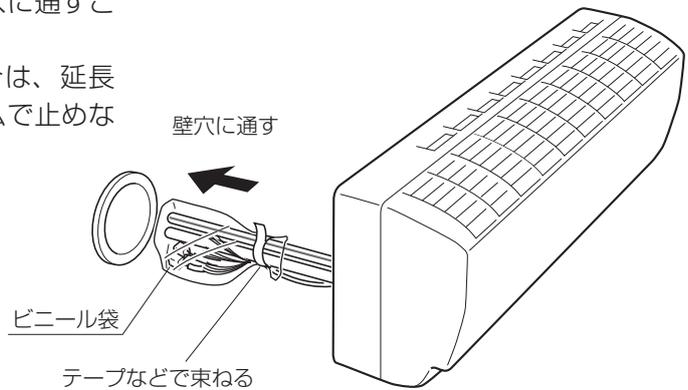
5. 延長ホース、電源線、換気ファン電源線、信号線をテープなどで束ねて壁穴に挿入する。

延長ホース、電源線、換気ファン電源線、信号線は、梱包用ビニール袋に入れて壁穴に通すとスムーズに通すことができます。

- 各配線を束ねてある輪ゴムを使用する場合は、延長ホース、各配線をビニール袋へ入れて輪ゴムで止めなおしてください。

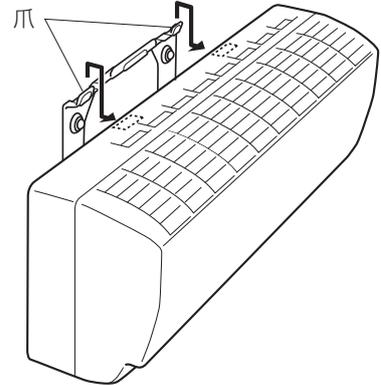
### ⚠ 注意

温水配管の引き回しは、2本の配管がクロス（交差）しないように配管してください。配管がクロスした状態で配管しますと、本体で押さえられ配管がつぶれたり、本体が変形しやすくなったりします。外壁面から見て、温水配管がねじれたり、つぶれたりしていないことを確認してください。



6. 機器の背面部の爪挿入部に機器取付板上部の爪（2カ所）を挿入する。取付板の爪が機器挿入部に確実に入ったことを確認してください。

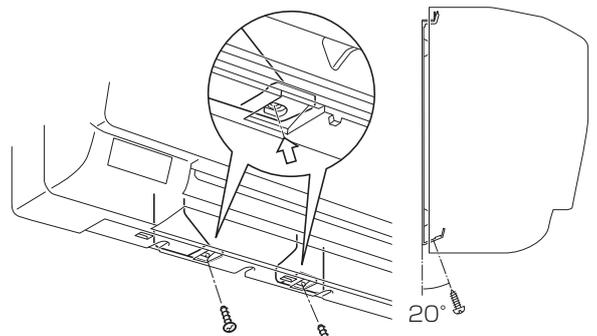
爪を機器に挿入する



7. 機器本体と機器取付板のねじ固定位置が合っていることを確認し、機器を機器固定ねじ（φ4×10 タッピンネジ：2本）（付属品）で機器取付板に固定する。固定した後、ネジカバーを組み付ける。

### ⚠ 注意

機器固定ねじは、手回しドライバーで締め付けてください。  
※インパクトドライバーを使用しないこと。



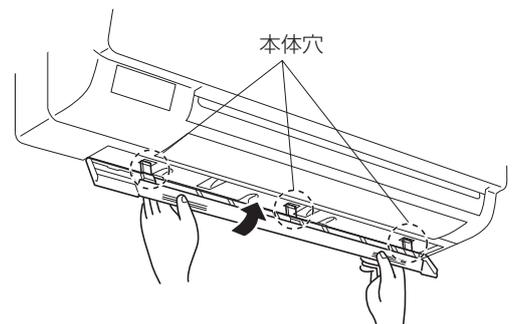
穴とねじ位置が合っていることを確かめてください。

ねじは壁面から20°の角度で固定してください。

8. 本体取付状態にガタツキがなく、水平が出ていることを確認する。

### ⚠ 注意

機器本体と浴室壁面の隙間、周囲はコーキングしないでください。正常に換気できなくなります。



#### ネジカバーの取り付け方

ネジカバーの爪を本体の穴に引っ掛け、ネジカバーを押え込む。

ネジカバーは「パチン」と音がするまで押え込む。

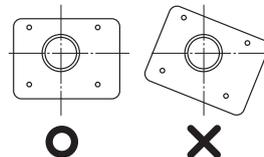
# 4. 換気ボックスの取り付け

## 4-1 壁面取付板の取り付け

(この項は、右側取り出し例で説明します。)

### ⚠ 注意

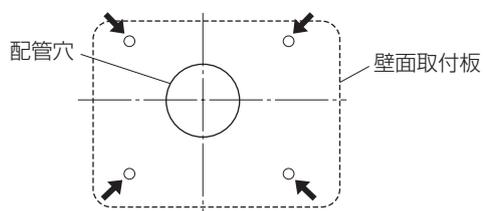
- 壁面取付板は傾かないように注意してください。



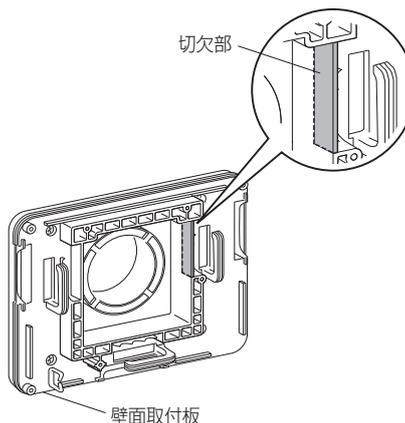
- 壁スリーブは 1 / 100 以上の先下がり勾配 (屋外側が下がるようにする) にしてください。



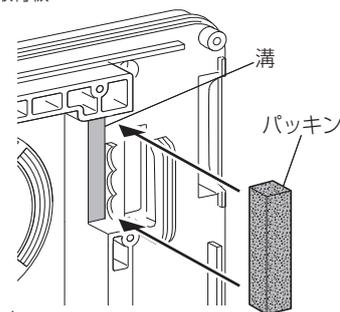
1. 外壁面に壁面取付板を取り付けるため、 $\phi 4$  用の下穴 ( $\phi 3.4\text{mm}$  穴) を 4 カ所開ける。  
(下穴には、シール材を塗布してください。)



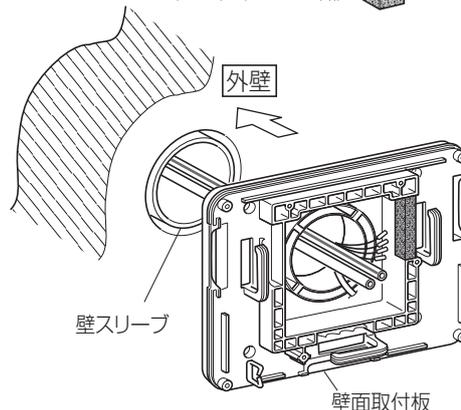
2. 壁面取付板の延長ホース取り出し方向を決め、切欠部を切る。  
(右図は延長ホース取り出し方向が右の場合です。取り出し方向は左、右、下の 3 カ所から選択します。)



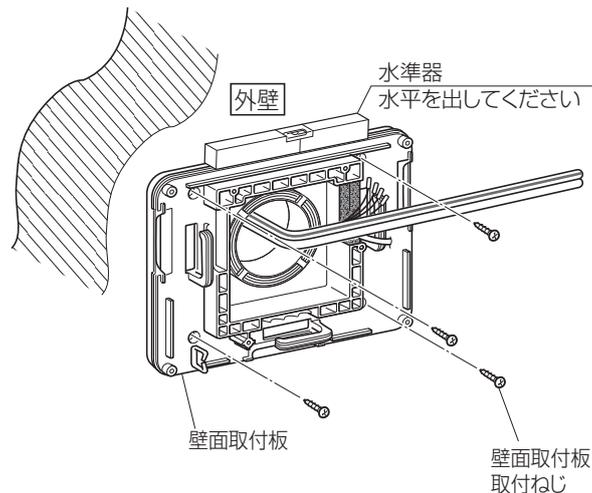
3. パッキン 1 個 (付属品) を壁面取付板の延長ホース取り出し部の溝位置に合わせて貼り付ける。



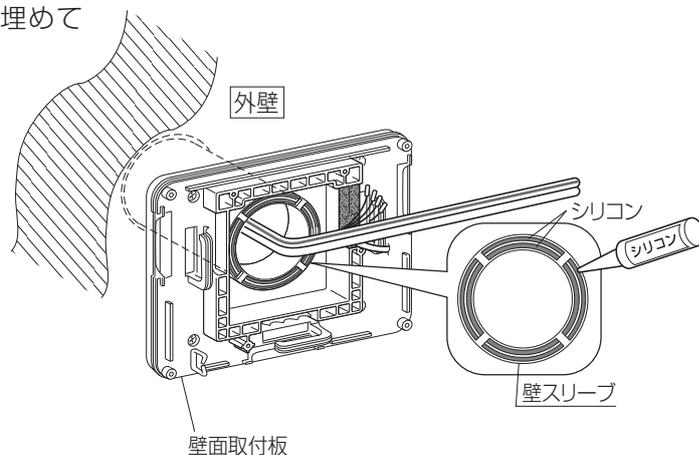
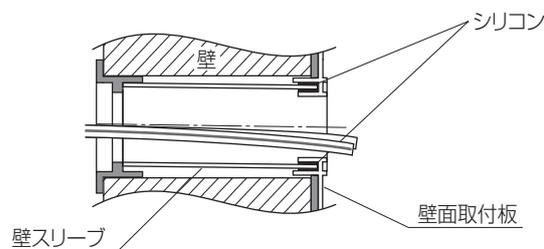
4. 壁面取付板を、壁穴と壁スリーブとの間に挿入する。



5. 壁面取付板が水平になっていることを確認し、壁面取付板取付ねじ（φ 4 × 40mm）（付属品）4 本で壁面に取り付ける。



6. 壁面取付板と壁スリーブとの隙間をシリコンで埋めてシールをしてから配管を引き回す。

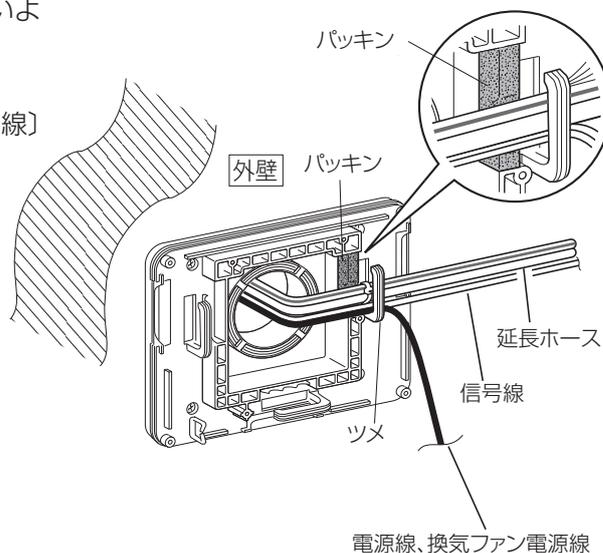


## 4-2 延長ホース、電源線、換気ファン電源線、信号線の固定

1. 延長ホースと電源線、換気ファン電源線、信号線を取り出し方向の壁面取付板のツメに引っ掛ける。  
このとき、温水配管がねじれたり、つぶれたりしないように注意してください。  
信号線は、延長ホースと同じ方向へ引き回す。  
※信号線は、[インテリジェント信号線] [E-CON 信号線] とラベルで表示されています。

### ⚠ 注意

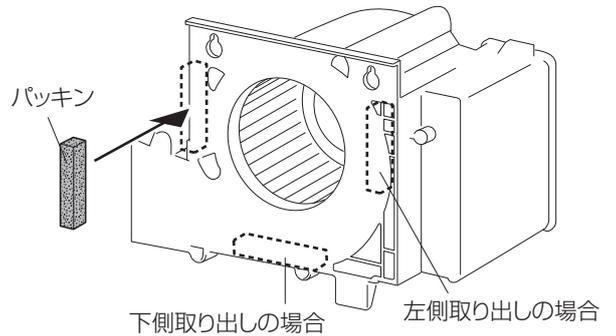
信号線および電気配線は、排気ダクト内にたるみがないように引き出してください。たるみがあると、換気ファンにあたる場合があります。故障の原因になります。



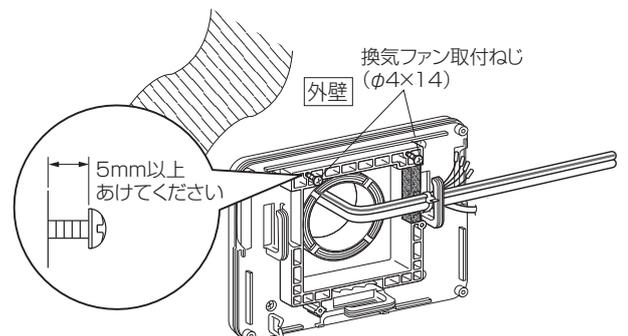
### 4-3. 換気ファンの取り付け

(この項は、右側取り出し例で説明します。)

1. 換気ファン裏側のパッキン貼り付け溝位置に合わせてパッキン（付属品）を貼り付ける。  
パッキンは換気ファンケーシングの□枠の部分に貼ってください。

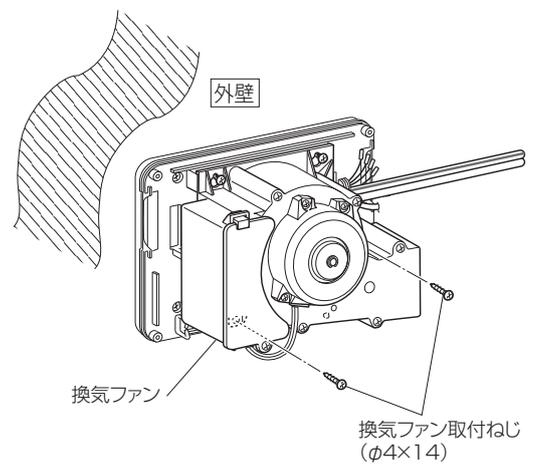


2. 壁面取付板の上部 2 カ所に換気ファン取付ねじ（ $\phi 4 \times 14$  : 2 本）（付属品）を仮止めする。



3. 換気ファンを仮止めした 2 本のねじに引っかけてから下側の 2 本のねじと合せて 4 本で固定する。  
取り付けにガタツキがないことを確認してください。

#### 配管が右取り出しの場合



# 5. 温水配管の接続 (浴室暖房乾燥機側の接続)

※熱源機側の温水配管の接続は、「9. 熱源機側の温水配管、電源、信号線の接続」を参照してください。

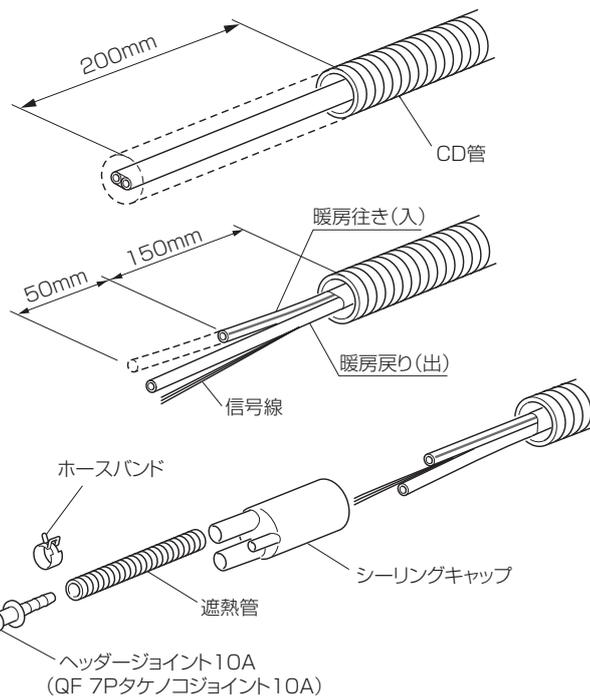
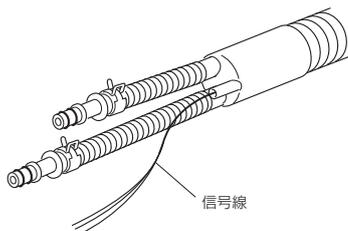
## 1. 温水配管の準備

樹脂管、シーリングキャップ、ホースバンドなどは現地手配品です。  
※スリムダクト等で養生できない場合、CD管は耐候性を有する部材を使用してください。

(例)

- ・未来工業製サヤフレキ：LS2-22B-M + シーリングキャップ：S-2207PM (7A 用)
- ・未来工業製サヤフレキ：LS2-30B-M + シーリングキャップ：S-3010PM (10A 用)

- ① CD管を先端から200mmの位置で切断し、樹脂管のアルミ被膜を取り除く。
- ② 樹脂管(暖房行き(入))を先端から50mmの位置で切断する。信号線は切らないでください。
- ③ 樹脂管にシーリングキャップを挿入する。
- ④ 遮熱管、ホースバンド、ヘッダージョイントの順に樹脂管に挿入する。ヘッダージョイントを挿入後バンドで樹脂管を止める。



2. 延長ホースの先端にCHMジョイント(付属品)、ホースバンド(付属品)2個を延長ホースに挿入し組み付ける。

### ⚠ 注意

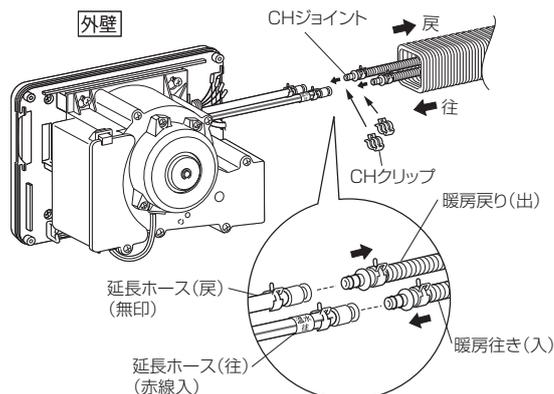
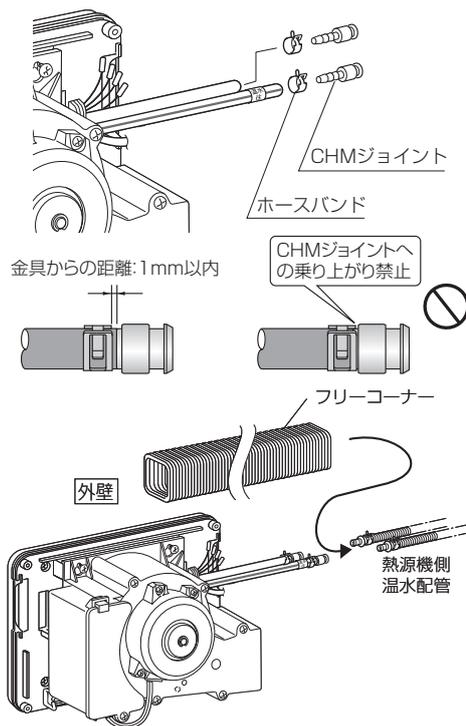
ホースバンドは確実に組み付けてください。  
CHMジョイントからの距離が離れていたり、CHMジョイントに乗り上げて組み付けると水漏れの原因となります。

3. 付属のフリーコーナーを熱源機からきている温水配管(別売品)に通す。

4. 温水配管のCHジョイントを機器側の延長ホースに挿入し、CHクリップで固定し接続する。CHジョイントが確実に固定されたことを確かめる。

### ⚠ 注意

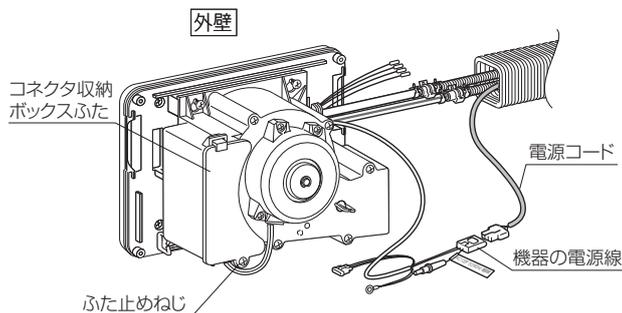
循環温水には「往」「戻」があります。機器延長ホースの「往」側(赤線入)と熱源機側「往」側(赤線入)を間違えないように接続してください。  
「往」側には「温水 往」ラベルが貼り付けてあります。



## 6. 電源の接続 (浴室暖房乾燥機側の接続)

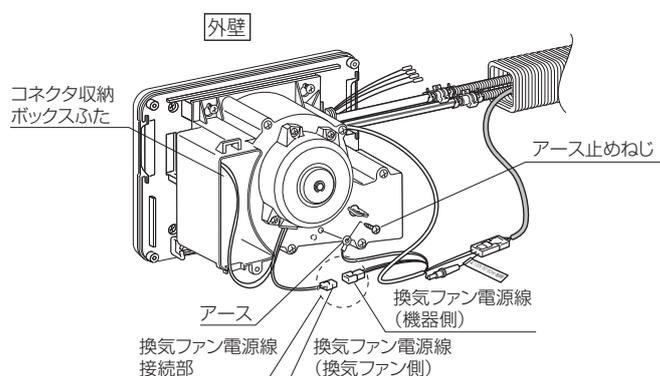
※熱源機側の電源の接続は、「9. 熱源機側の温水配管、電源、信号線の接続」を参照してください。

1. コネクタ収納ボックスふたをはずす。(ねじ 1 本)
2. 電源コード (付属品) と機器の電源線 (AC100V 表示) をコネクタで接続する。
3. 換気ファン電源線の機器側と換気ファン側をコネクタ接続する。アース線は換気ファンケースに固定する。(アース止めねじは、換気ファンケースに取り付けてあるのではありませんして使用する。)



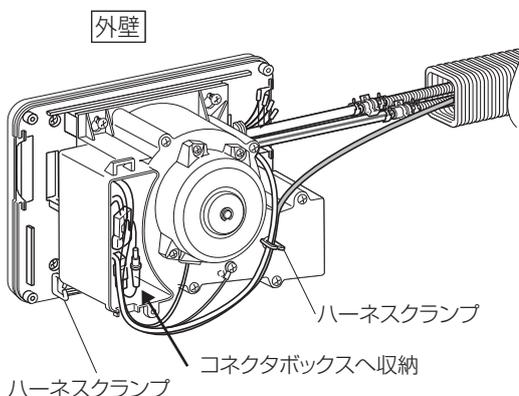
### ⚠ 注意

- ・コネクタは確実に接続してください。接続が不完全な場合は、漏電、事故の原因となります。
- ・電源コードは必ず機器に同梱されているものを使用してください。それ以外のものを使用すると漏電、事故の原因となります。

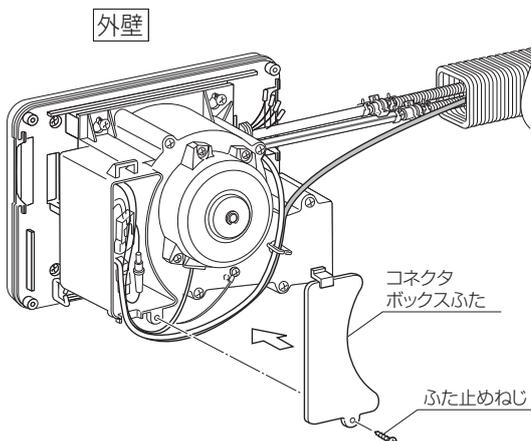


4. 電源線と電源コードをハーネスクランプに固定して、コネクタ、ヒューズホルダーをコネクタボックス内へ収める。

ハーネスクランプに通さないと、排気フードキャップ取り付け時に配線をはさむ恐れがあります。



5. コネクタボックスのふたをふた止めねじで固定する。



# 7. 信号線の接続 (浴室暖房乾燥機側の接続)

信号線は「インテリジェント信号線」「E-CON 信号線」があります。  
熱源機に合わせ使用する信号線を選んでください。

※熱源機側の信号線の接続は、「9. 熱源機側の温水配管、電源、信号線の接続」を参照する。

## インテリジェント通信接続の場合

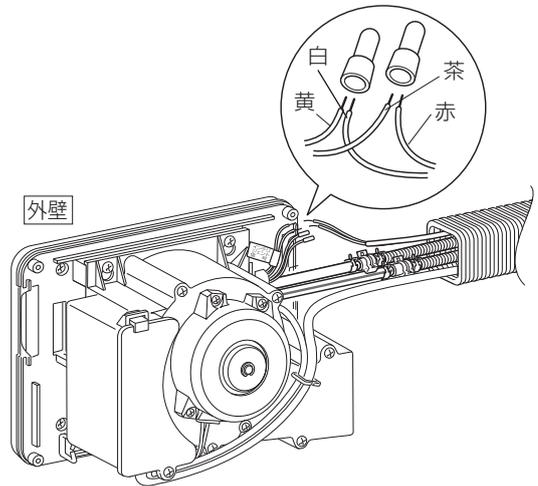
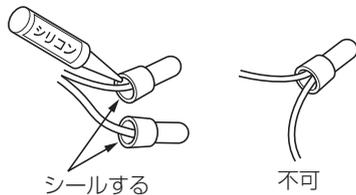
機器側の「インテリジェント信号線」を、CD 管付樹脂管の信号線に閉塞端子（付属品）を使用し接続する。

- ・機器側 茶と、CD 管付樹脂管の赤
- ・機器側 黄と、CD 管付樹脂管の白

※ CD 管付樹脂管の信号線の黒色は使用しません。

※「E-CON 信号線」は、使用しませんので閉塞端子（付属品）を各々かしめ取り付け後にシリコンを注入し、シールしてください。

※「E-CON 信号線」は、各々ばらばらで閉塞端子（付属品）を取り付けてください。



## E-CON 通信接続の場合

機器側の「E-CON 信号線」を、CD 管付樹脂管の信号線に接続する。

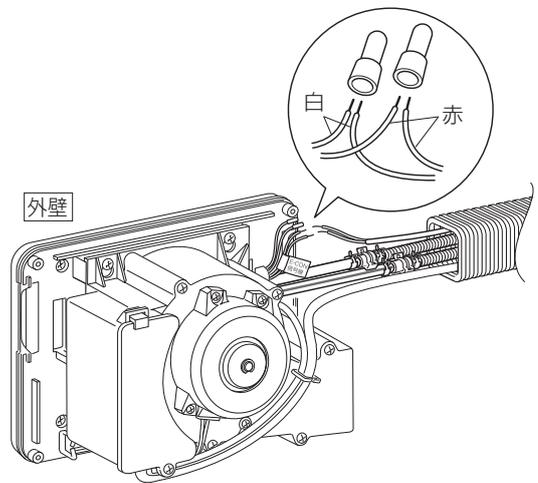
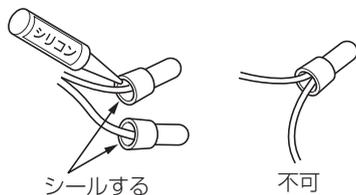
- ・機器側 赤と、CD 管付樹脂管の赤
- ・機器側 白と、CD 管付樹脂管の白

※「E-CON 信号線」で接続した場合は、異常時に給水ランプ（赤）が点滅しないことを、お客さまに説明する。

※ CD 管付樹脂管の信号線の黒色は使用しません。

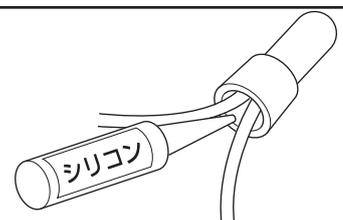
※「インテリジェント信号線」は、使用しませんので閉塞端子（付属品）を各々かしめ取り付け後にシリコンを注入し、シールしてください。

※「インテリジェント信号線」は、各々ばらばらで閉塞端子（付属品）を取り付けてください。



## ⚠ 注意

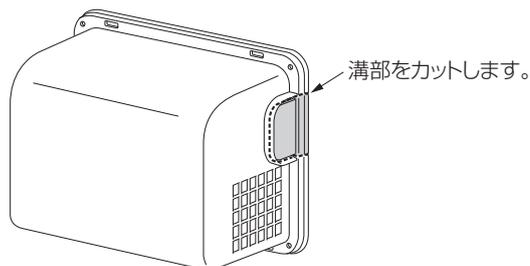
- ・信号線を圧着後、閉塞端子にシリコンを注入しシールをしてください。漏電防止・導電腐食防止のために確実にシリコンを注入しシールしてください。
- ・使用しない機器側の接続端子にもシリコンを注入し、シールしてください。



# 8. 排気フードキャップの取り付け

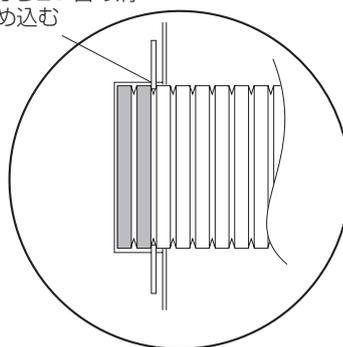
(この項は、右側取り出し例で説明します。)

1. 排気フードキャップの配管取り出し方向の溝部を切る。  
(右図は配管取り出し方向が右の場合です。取り出し方向は左、右、下の3カ所から延長ホースの取り出し方向に合わせて選択します。)



2. フリーコーナーを壁面取付板の溝部に取り付ける。このときフリーコーナーの蛇腹部の2つ目の溝を壁取付板の溝部にはめ込むように固定する。

端から2つ目の溝へはめ込む



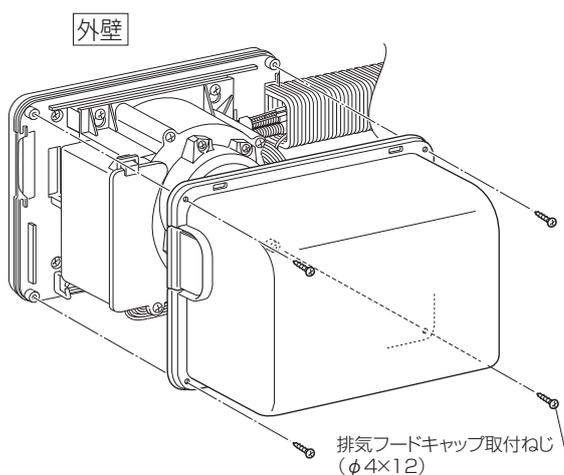
フリーコーナーの蛇腹溝部にはめ込む  
(2つ目の溝部にはめ込む)

外壁

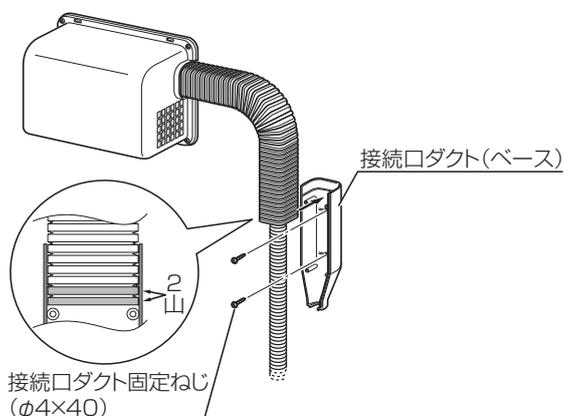
2山

フリーコーナー

3. 排気フードキャップを壁面取付板に排気フードキャップ取付ねじ (φ4×12:4本) (付属品) で取り付ける。このとき排気フードキャップの溝部がフリーコーナーの溝部にはめ込むように固定する。

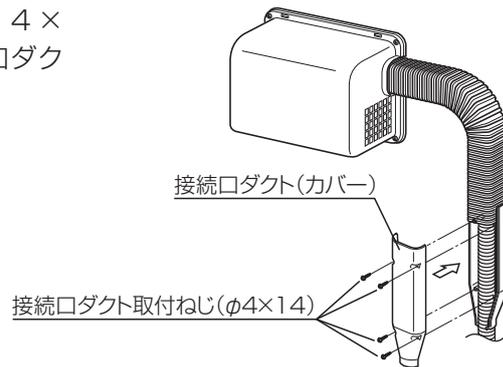


4. 接続口ダクト (ベース) を接続口ダクト固定ねじ (φ4×40:2本) (付属品) で壁面に取り付ける。



5. フリーコーナーを接続口ダクト (ベース) の溝部に取り付ける。このときフリーコーナーの蛇腹の2つ目の溝を接続口ダクト (ベース) の溝部にはめ込むように固定する。

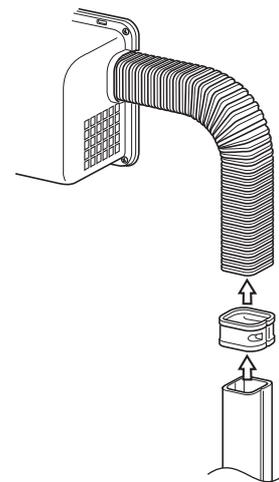
6. 接続口ダクト（カバー）を接続口ダクト取付ねじ（φ4×14：4本）（付属品）で固定する。このとき接続口ダクト（カバー）の溝部にはめ込むように固定する。



7. ダクトを延長するときは、市販のジョイントと延長用のダクトまたは、フリーコーナーなどで接続する。

- 推奨品 ダクト : 因幡製スリムダクト SD-66 アイボリー色  
 フリーコーナー : 因幡製フリーコーナー SF-66 アイボリー色  
 ジョイント : 因幡製フリーコーナージョイント SFJ-66 アイボリー色

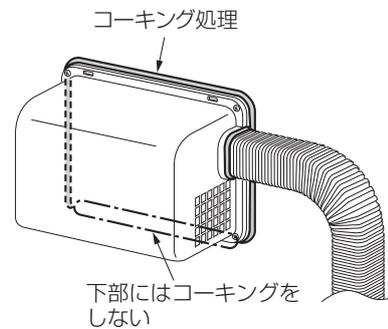
・上記推奨品は現地手配



8. 壁面と壁面取付板の間の周囲をコーキング処理する。このとき、下部にはコーキングをしない。

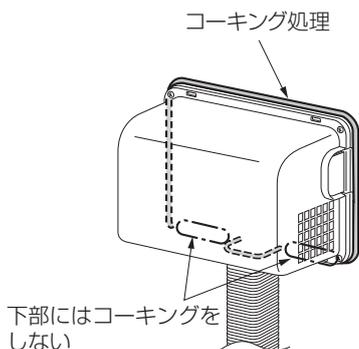
**注意**

下部にコーキングをすると、結露水や雨水が排気フードキャップ内にたまり、漏電、事故の原因になります。

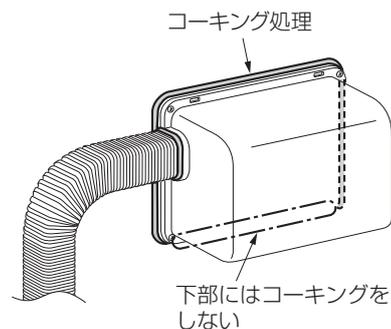


**配管取り出し設置例**

- ・配管が下取り出しの場合



- ・配管が左取り出しの場合



# 9. 熱源機側の温水配管、信号線、電源の接続

## 9-1. 温水配管、信号線の接続

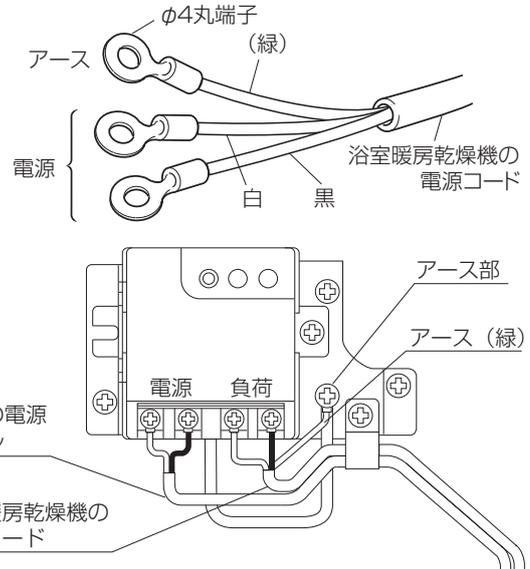
熱源機側の温水配管、信号線接続の詳細については、熱源機の設置工事説明書を参照する。

## 9-2. 電源の接続

※電源工事は、「電機設備に関する技術基準」「内線規程」に従って、有資格者が行ってください。

### 熱源機から電源をとる場合

- ・熱源機の工事説明書を参照して接続する。
- ①浴室暖房乾燥機の電源コード（付属品）を熱源機の設置場所に合わせ切断しφ4丸端子（付属品）を組み付ける。
- ②電源コードの黒と白を熱源機の漏電ブレーカーの負荷側（二次側）に接続する。アース線（緑）はアース部に取り付ける。



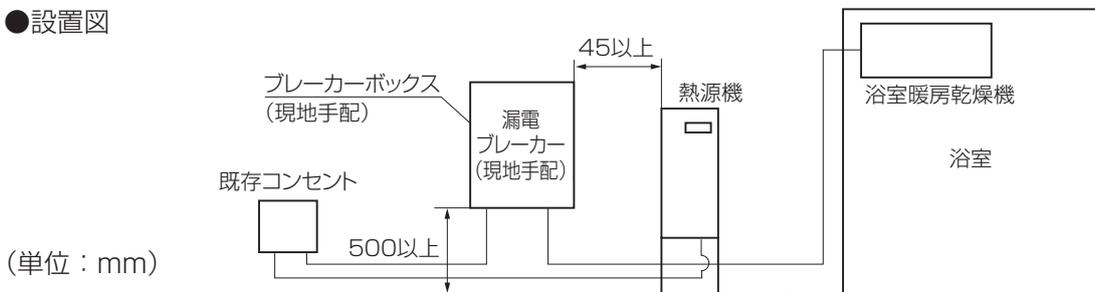
### ⚠ 注意

浴室暖房乾燥機の電源コードは必ず「負荷側」に接続してください。間違えて接続するとショートし、機器の故障の原因となります。

### 熱源機から電源をとらない場合

電源回路には本機専用の漏電ブレーカー（現地手配：30mA以下、0.1秒以内）を設置する。

#### ●設置図



- ・上記設置図のように機器とコンセントとの間に、漏電ブレーカーの設置位置を決める。（漏電ブレーカーは浴室内に設置できません。）
- ・漏電ブレーカーは、地面から500mm以上離し、必ず垂直に設置する。また、左右の可燃物（熱源機など）から45mm以上離す。

### ⚠ 注意

漏電ブレーカーを必ず取り付けてください。  
感電防止のため、漏電ブレーカーの取り付けが法規によって義務づけられています。

## 9-3. アース工事

万一漏電したときの感電事故防止のために必ずアースを接続する。

電源コードは 3 芯ケーブルを使用する。白色・黒色は電源に使用し、アース用コードは緑色を使用する。

### 熱源機から電源をとらない場合

電気設備技術基準（第 28 条）に基づき、D 種接地工事を行う。（接地抵抗 100 Ω 以下）  
ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。

### 熱源機から電源をとる場合

熱源機にアースを接続する。

### ⚠ 注意

- 設置の際、必ず確実なアース工事（D 種接地工事）を行ってください。  
機器が故障した場合、感電の恐れがあります。
- 電気工事中は、電源を「切」にし、安全に作業を行ってください。
- ガス配管、給水、給湯配管と電源ケーブルなどの電気配線は接触しないように工事してください。

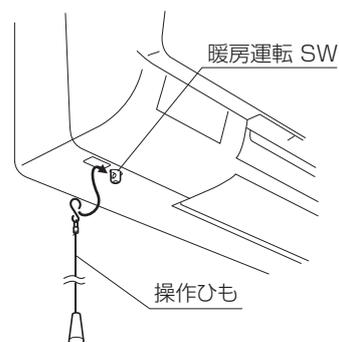


## 10. 本体暖房運転 SW 用操作ひもの取り付け

RBH-W414K、HBD-4114AUSK 型には、この取り付けはありません。

機器の設置が終わりましたら、暖房運転 SW に操作ひもを取り付ける。

ひもの先端のフック部を、機器本体の暖房運転 SW の穴に差し込む。



# 11. リモコンの取り付け

## (1) リモコン（付属品）の取付位置の選定

リモコンの取り付け位置は、お客さまと相談の上きめる。

### 浴室に設置する場合

- ・リモコンは、浴室内のドアの近くで、浴槽の反対側の壁に設置する。ただし、扉を開けたとき扉がリモコンにあたらない位置に設置する。
- ・浴槽の反対側の壁に設置できない場合は浴槽より850mm以上、上部に設置する。  
850mm未満の場合、リモコンを落下した際に、浴槽をきずつける恐れがあります。

### ⚠ 注意

リモコンは必ず壁面に設置する。リモコンを浴槽の湯に浸けたり、壁面に設置しないで直置きすると故障の原因になります。

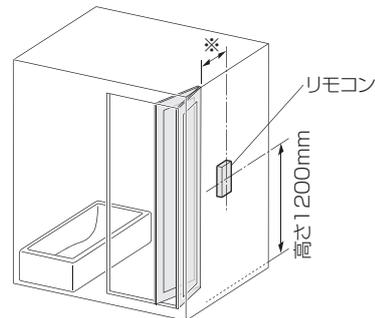
必ず壁面の浴槽に入らない位置に設置する。

### 脱衣室に設置する場合

- ・リモコンには600mmのくさがりが付いています。浴室のドアを開けて浴室ユニットに向けて無理なく操作できる位置に取り付ける。

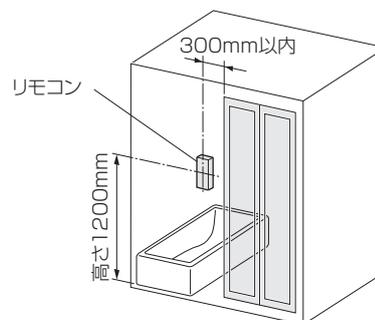
## 【リモコン取り付け位置の例】

〈浴室に設置する場合〉



※扉を開けたときに、扉があたらない位置に取り付ける。

〈脱衣室に設置する場合〉



## (2) リモコンホルダー（付属品）の取り付け

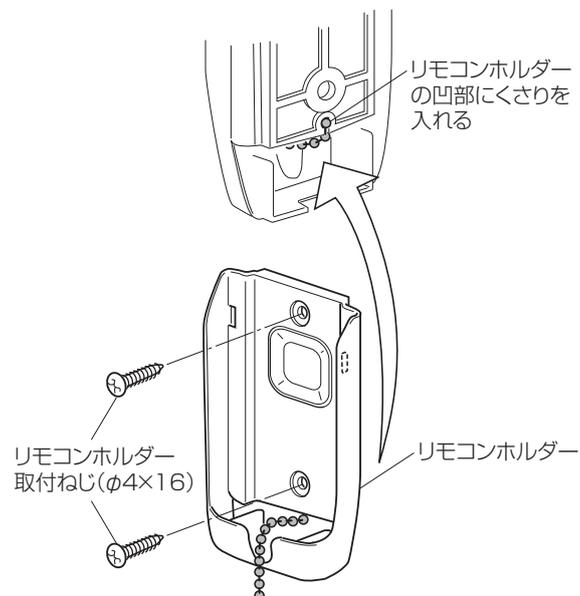
- ・リモコンのくさをリモコンホルダーの裏面凹部に確実に入れる。
- ・リモコンホルダー取付ねじ（付属品）（φ4×16mm）2本で壁面に取り付ける。

※壁、壁パネルの材質によってはアンカープラグ（現地手配）を使用する場合があります。壁、壁パネルの材質、壁内の構造を事前に確認する。

「2-3. 機器取付板の取り付け」（11ページ）と同様に壁の材質に合った下穴加工や補強を行う。

### ⚠ 注意

リモコンのくさがりが垂れコンセント等に触れないか確認してください。



※上図のホルダーはRBH-W414K、HBD-4114AUSK型のホルダーで示す。

## (3) 乾電池を入れ、リモコンをリモコンホルダーに収納する。

※引き渡しまで期間があく場合は、引き渡し直前に乾電池を入れる。

# 12. ランドリーパイプ（別売品）の取り付け

※ランドリーパイプは、別売品で設定してあるものを使用する。

別売品のランドリーパイプは、2本仕様品と1本仕様品が設定してあります。

- ランドリーパイプ2本仕様品……RBK-W054
- ランドリーパイプ1本仕様品……BHOT-W015

※取り付け位置に照明や窓が当たらないか、確認を行う。場合によっては、1本しか設置できない場合があります。

1. ランドリーパイプの取り付け位置を選定し、フックを取り付ける。

## パイプの位置

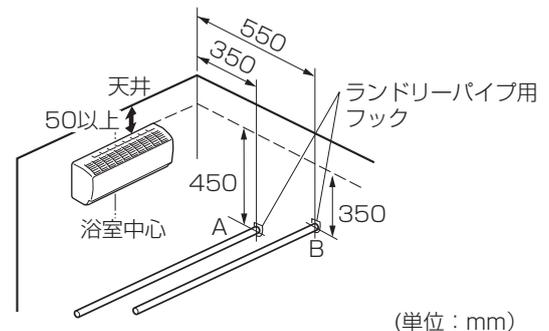
高さ方向：機器の本体上面より 450mm 下方 (A)

350mm 下方 (B)

横 方 向：機器取り付け壁面より 350mm 前方 (A)

550mm 前方 (B)

※ランドリーパイプが1本の場合はAに取り付けると効率良く乾燥できます。



●取り付け位置に照明や窓が当たらないか確認する。上記寸法が確保できない場合は、温風が衣類になるべくよく当たる位置に設定する。

## ●ランドリーパイプ用フックの取り付け

ランドリーパイプセットには、パイプを使用しないときに邪魔にならない位置にパイプを収納するための収納用フックが付属されています。収納用フックの位置は、お客さまに相談の上、取り付け位置を決め施工する。

(入浴の邪魔にならない位置にする。)

2. ランドリーパイプの長さを浴室幅に合うように調整します。ランドリーパイプの取り付け幅は最大1800mmです。

## ユニットバスへ取り付けの場合

### ⚠ 注意

- ・壁、壁パネルの材質によっては、ランドリーパイプ用フックを固定するときに中空用アンカー（現地手配）を使用する必要があります。壁、壁パネルの材質、構造を事前に確認してください。
- ・中空用アンカーは、衣類の重量に十分耐えるもの（10kg以上）を使用してください。
- ・アンカー用の穴の端面や、アンカー取り付け後のアンカー部分には、錆の発生を防ぐためにも十分なシールを施してください。

# 13. 試運転

◎試運転はお客さまと一緒に必ず行う。

## 13-1. 自動試運転（自動試運転機能付き熱源機を使用される場合）

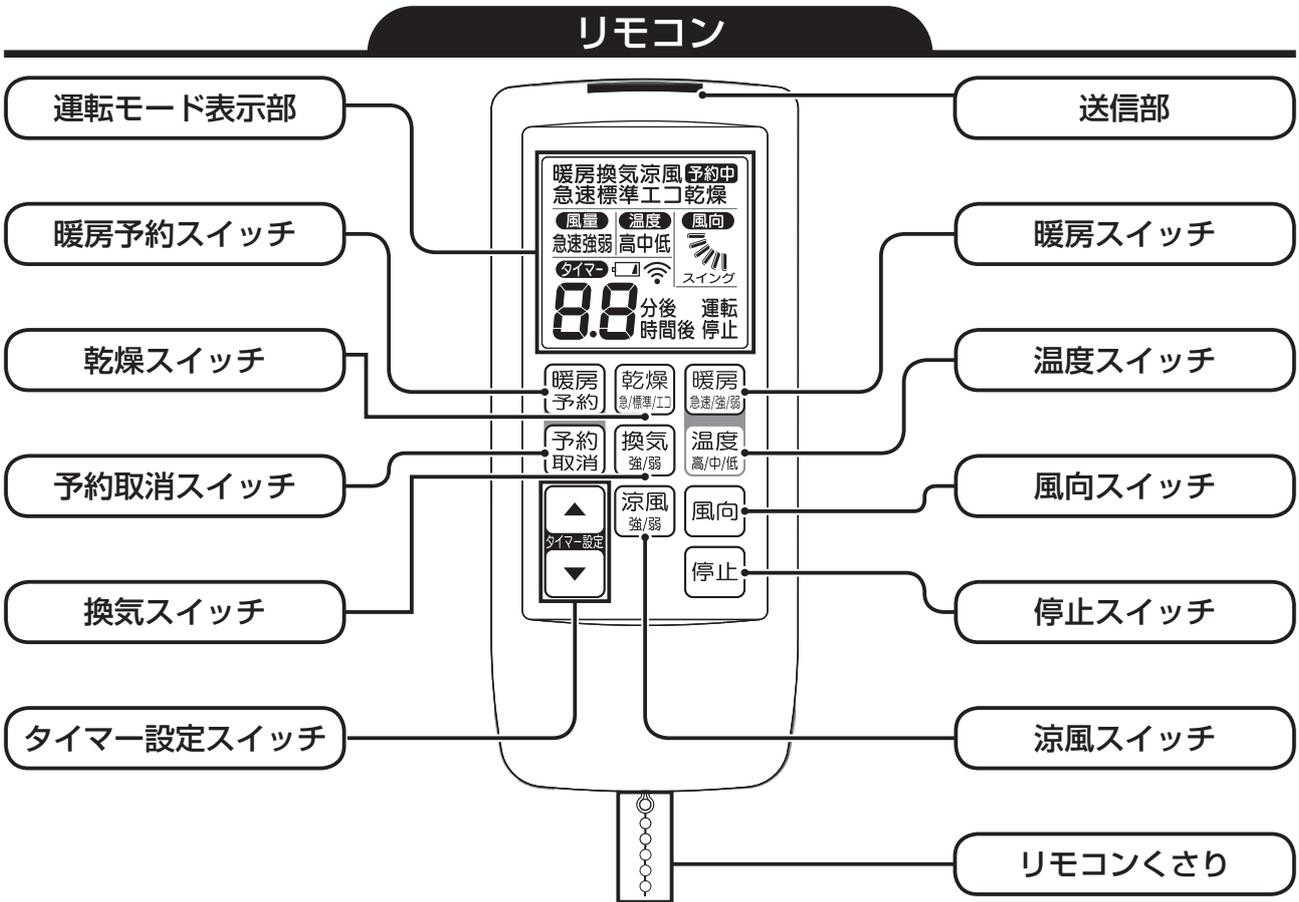
- 自動試運転の内容
    - ・機器と熱源機間の信号線接続チェック
    - ・機器の水張り完了チェック
    - ・電装基板の動作チェック
    - ・暖房運転による動作チェック
  - インテリジェント信号線を接続する場合は、熱源機側から自動試運転手順に従って試運転を行う。自動試運転について詳しい説明は、熱源機に同梱の工事説明書を参照する。
  - 自動試運転のときは、浴室の窓と扉は必ず閉める。
  - 自動試運転中は、機器本体の「運転」「予約」「プラズマクラスター」ランプが点滅する。(RBH-W414Kは「プラズマクラスター」ランプなし。)
  - 自動試運転終了後、試運転を行う。  
〔暖房配管逆接続判定機能〕
  - 自動試運転中に暖房配管の行き戻り方向が正しいか判定します。逆接続と判断した場合、熱源機の表示部が9点滅します。自動試運転結果がNGの場合で、機器や熱源機のエラー履歴に逆接続と判定されている場合は暖房配管行き戻り方向の再確認を行ってください。
- ※暖房配管逆接続判定機能は外気温が高い夏期や使用される熱源機の種類によっては、逆に配管がつかなくても、逆接続と判定できない場合があります。

## 13-2. 試運転

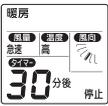
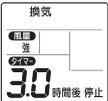
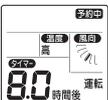
◎試運転は、インテリジェント通信線、E-CON 信号線のどちらに接続した場合でも行うこと。

### RBH-W414K、HBD-4114AUSK の場合

- ・熱源機を運転できる状態にします。
- ・機器につながる漏電ブレーカーを「ON」にします。
- ・リモコンに乾電池（単四形 2本）を入れる。



(1) 各運転の確認

運転モード	確認していただくこと	チェック
<b>暖房運転</b>		
暖房スイッチを押す 	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 温風吹き出し口から温風が出てくるのを確認します。 (冷風防止機能があり、温風が出てくるまで数分かかります。)	
	暖房スイッチを押すたびに、風量表示が「急速」→「強」→「弱」に切り替わることを確認する。	
<b>乾燥運転</b>		
乾燥スイッチを押す 	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。 温風吹き出し口から温風が出てくるのを確認します。	
	乾燥スイッチを押すたびに、「急速」→「標準」→「エコ」と表示が切り替わることを確認する。	
<b>涼風運転</b>		
涼風スイッチを押す 	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。 温風吹き出し口から風が出てくるのを確認します。	
	涼風スイッチを押すたびに、風量表示が「強」⇔「弱」に切り替わることを確認する。	
<b>換気運転</b>		
換気スイッチを押す 	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。	
	換気スイッチを押すたびに、風量表示が「強」⇔「弱」に切り替わることを確認する。	
<b>暖房予約運転</b>		
暖房予約スイッチを押す 	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「予約」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。	
予約取消 暖房予約中に予約取消スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「予約」ランプと、リモコンの液晶表示が消灯することを確認する。	

(2) 時間設定の確認 暖房、乾燥、換気、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
時間設定スイッチ「▲」「▼」を押す	各運転について、運転時間が設定できることを確認する。	
	暖房	5分～6時間
	乾燥(急速)	5分～6時間
	換気	5分～12時間
	涼風	5分～12時間

(3) 温度設定の確認 暖房運転中にご確認ください。

操作		
温度スイッチを押す	温度表示が「高」→「中」→「低」に切り替わることを確認する。	

(4) 風向の確認 暖房、乾燥、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
風向スイッチを押す	ルーバーの角度が切り替わったり、スイングすることを確認します。 風向表示が  と順に表示することを確認します。	

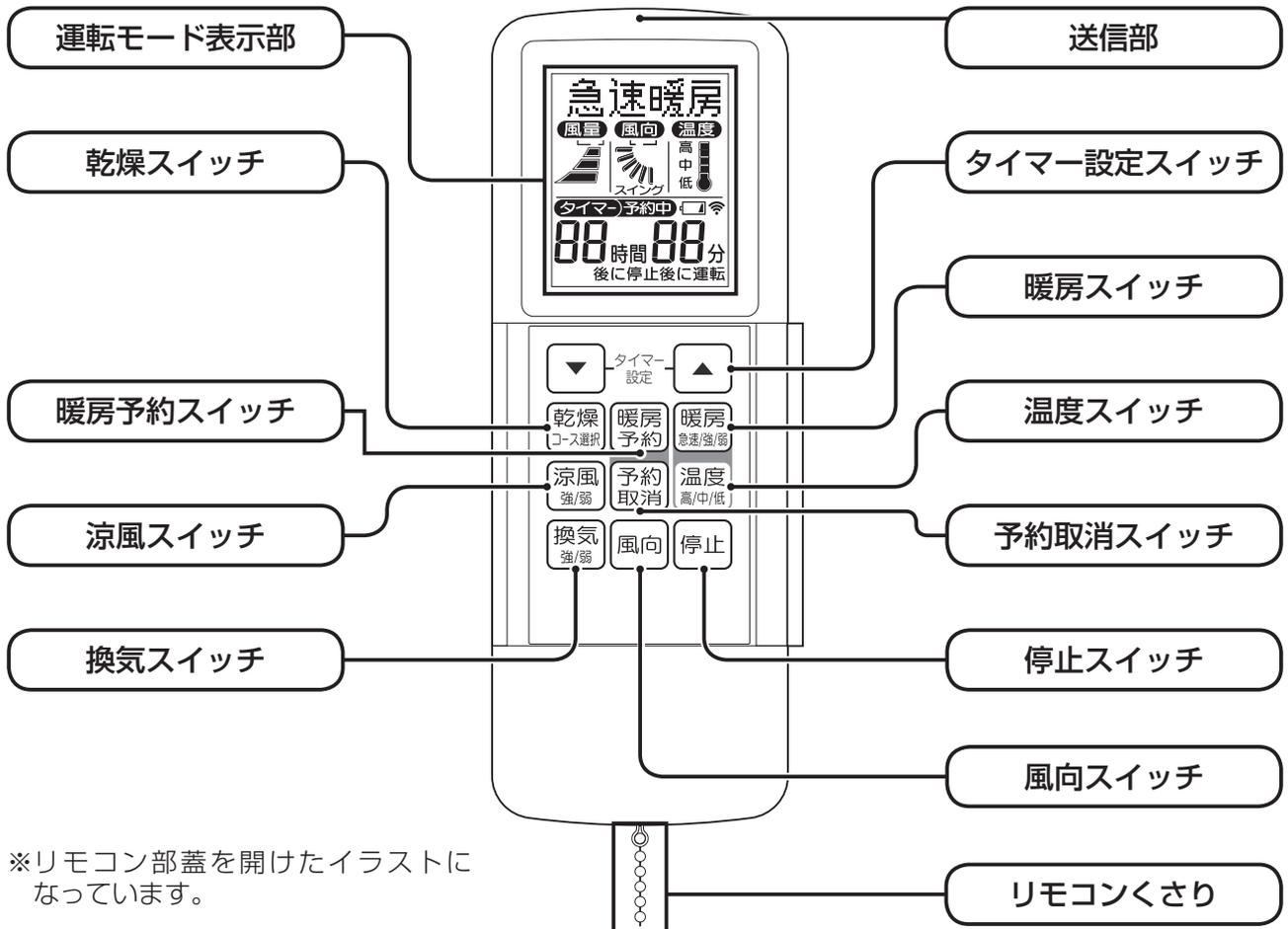
(5) 停止の確認 暖房、乾燥、換気、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
停止スイッチを押す	本体から「ピーッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが消灯し、全ての運転が停止することを確認します。	

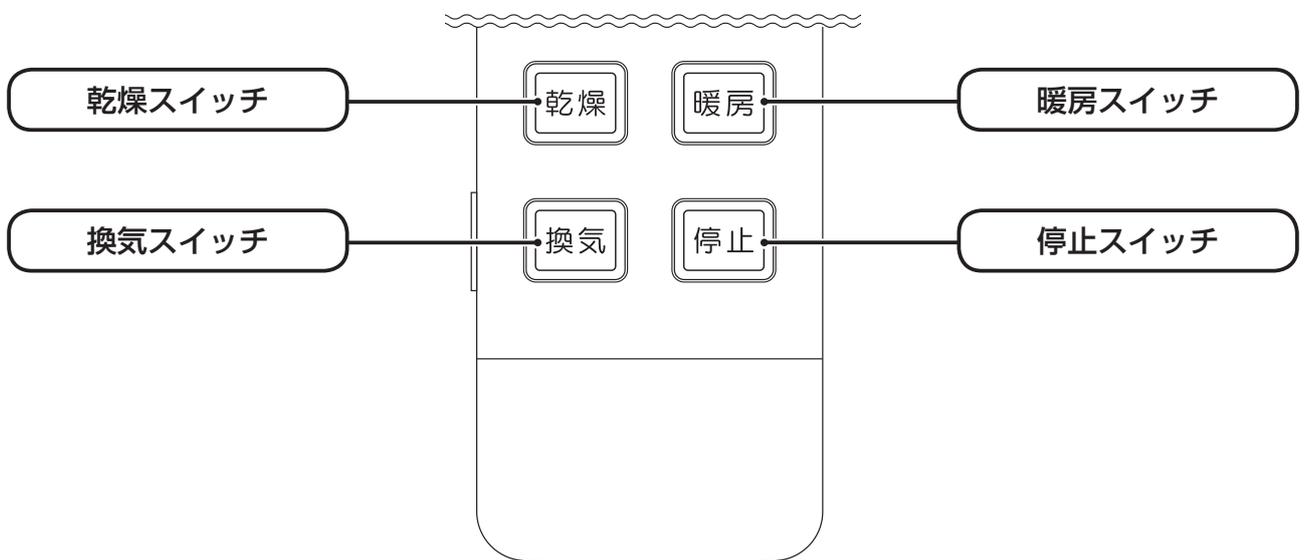
**RBH-W414KP、HBD-4114AUSK-P の場合**

- ・熱源機を運転できる状態にします。
- ・機器につながる漏電ブレーカーを「ON」にします。
- ・リモコンに乾電池（単四形 2本）を入れる。

**リモコン**



※リモコン部蓋を開けたイラストになっています。



(1) 各運転の確認

運転モード	確認していただくこと	チェック
<b>暖房運転</b>		
暖房スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 温風吹き出し口から温風が出てくるのを確認します。 (冷風防止機能があり、温風が出てくるまで数分かかります。)	
	暖房スイッチを押すたびに、表示が「急速暖房」→「暖房強」→「暖房弱」に切り替わることを確認する。	
<b>乾燥運転</b>		
乾燥スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプと「プラスマクラスターランプ」が点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。 温風吹き出し口から温風が出てくるのを確認します。	
	乾燥スイッチを押すたびに、表示が「自動乾燥」→「エコ乾燥」→「タイマー乾燥」と切り替わることを確認する。	
<b>涼風運転</b>		
涼風スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。 温風吹き出し口から風が出てくるのを確認します。	
	涼風スイッチを押すたびに、表示が「涼風強」⇔「涼風弱」に切り替わることを確認する。	
<b>換気運転</b>		
換気スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。 換気ファンが運転することを確認します。	
	換気スイッチを押すたびに、表示が「換気強」⇔「換気弱」に切り替わることを確認する。	
<b>暖房予約運転</b>		
暖房予約スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「予約」ランプが点灯することを確認する。 液晶表示が左のようになることを確認する。	
		
<b>予約取消</b>		
暖房予約中に予約取消スイッチを押す	本体から「ピッ」と音が鳴り、本体の「予約」ランプと、リモコンの液晶表示が消灯することを確認する。	

(2) 時間設定の確認 暖房、乾燥、換気、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
時間設定スイッチ「▲」「▼」を押す	各運転について、運転時間が設定できることを確認する。	
	暖房	5分～6時間
	乾燥(タイマー)	5分～6時間
	換気	5分～12時間
	涼風	5分～12時間

(3) 温度設定の確認 暖房運転中にご確認ください。

操作		
温度スイッチを押す	温度表示が「高」→「中」→「低」に切り替わることを確認する。	

(4) 風向の確認 暖房、乾燥、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
風向スイッチを押す	ルーバーの角度が切り替わったり、スイングすることを確認します。 風向表示が  と順に表示することを確認します。	

(5) 停止の確認 暖房、乾燥、換気、涼風の運転中にご確認ください。

操作		
停止スイッチを押す	本体から「ピーッ」と音が鳴り、本体の「運転」ランプが消灯し、全ての運転が停止することを確認します。	

# 14. 設置工事後の点検確認

設置工事が終了しましたら、チェックリストに基づいて必ず確認を行う。

## ●チェックリスト

点検項目		点検内容	チェック
設置	電源電圧	銘板に記載の電源電圧（AC100V）と同じ電源を接続していますか？	
	設置条件	機器本体の取り付け位置は適切で水平に取り付けられていますか？	
		リモコンの取り付け位置は適切ですか？	
		設置条件は満たしていますか？	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか？	
安定設置	機器は安定して強固に取り付けられていますか？		
電気工事		機器本体電路部に漏電ブレーカーが設置されていますか？	
		アース線の接続は確実ですか？	
		電源工事、電気結線工事は指定された工事がされていますか？	
		電源、信号線の接続部のシールは確実にされていますか？	
温水配管接続部・ 排気フードキャップ		温水配管接続部からの漏れはありませんか？	
		配管の接続は正しいですか？（暖房行き（入）・戻り（出））	
		壁面とのシールは確実にされていますか？	
		ランドリーパイプの位置・強度は適切ですか？	
試運転		自動試運転を行いましたか？（自動試運転機能付熱源機を使用される場合）	
		試運転を行いましたか？	

# 15. 異常時の処置、お客さまへの説明

## 15-1. 異常時の処置

エラー表示とその内容および発生時の対応方法

安全装置	室内機のエラー表示	熱源機へのエラー表示	点検項目
室温高温異常	運転ランプ (緑) 点滅	164	浴室内温度の確認 サーミスタ抵抗値の測定 断線、短絡、コネクタ接続不良の確認
室温サーミスタ断線・短絡		314	サーミスタ抵抗値の測定 断線、短絡、コネクタ接続不良の確認
浴暖湯温サーミスタ断線・短絡		324	
循環ファン回転数異常		624	循環モーターの抵抗値測定 断線、短絡、コネクタ接続不良の確認
電源パルス異常		704	電源ノイズの有無の確認
湿度センサー断線・短絡		364	湿度センサーの抵抗値の測定 断線・短絡・コネクタ接続不良の確認
熱源機湯水	給水ランプ (赤) 点滅	043	暖房循環水の確認
熱源機異常 (湯水以外)		—	熱源機の異常内容の確認
電源異常	ランプ全消灯	—	漏電ブレーカーの作動確認 電流ヒューズ切れ確認 電源コネクタの接続不良確認
暖房配管逆接続異常	—	914	機器と熱源機間の暖房配管行き戻り方向の確認

※ RBH-W414K、HBD-4114AUSK に湿度センサーは搭載されません。

※そのほかに異常が発生した場合は「設置工事後の点検確認」および取扱説明書の「故障かな?と思ったら」または本体に付属の「故障診断シート」に基づいて処置をしてください。

---

## 15-2. お客さまへの説明

①取扱説明書に従って取り扱い方法をお客さまに説明してください。

試運転で各モードの設定値を変更した場合は、試運転終了後に下記の要領で各設定値を工場出荷設定値に戻してください。やむを得ず戻せなかった場合は、次回使用時に取扱説明書に記載してある工場出荷設定値と異なる旨を説明してください。

工場出荷設定値に戻す方法

- リモコンの乾電池をリモコンから一度はずしてください。しばらくしてから乾電池を入れ直すと、液晶表示が全点灯し、設定値が工場出荷時の状態に戻ります。

②保証書に必ず必要事項を記入の上、お客さまにお渡してください。

また、取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。

③冬期の凍結による破損防止について説明してください。

熱源機・本機器とも電源コードを抜かないでください。凍結予防運転ができなくなり、機器が破損することがあります。長期間使用しない場合など、やむを得ず電源を落とす場合は熱源機の取扱説明書に記載されている方法に従ってください。



07259192